

**大学生の恋愛・結婚**  
**に対する実態意識調査**

十文字学園女子大学  
社会情報学部・社会情報学科

星野ゼミ卒業研究

吉田 智恵

上野 恵美

鈴木 千晴

大友 百合

## 目次

### I 章 研究の背景と方法

1. 研究の背景
2. 調査の概要
3. 分析の方法

### II 章 結果と考察

1. 女子大生の恋愛観・結婚観に対する意識調査
  - (1) 女子大生の恋愛観について
  - (2) 女子大生の結婚観について
  - (3) 女子大生の恋愛に対する意識の差
  - (4) 女子大生の結婚に対する意識の差
  - (5) 恋人・配偶者の重視条件について
  - (6) 恋人の有無による恋人・配偶者の重視条件について
2. 女子大生の恋愛の実態について
  - (1) 交際のきっかけについて
  - (2) 現在お付き合いしている特定の異性の有無
  - (3) 現在お付き合いしている特定の異性について
3. 因子タイプ別恋愛観・結婚観について
  - (1) 恋愛・結婚に関する意識についての因子分析結果
  - (2) 因子タイプ別恋愛に対する意識の差
  - (3) 因子タイプ別結婚に対する意識の差

#### 4. 勝ち犬予備軍と負け犬予備軍の恋愛観・結婚観について

(1) 負け犬について

(2) 勝ち犬予備軍と負け犬予備軍の割合

(3) 勝ち犬予備軍と負け犬予備軍の恋愛に対する意識の差

(4) 勝ち犬予備軍と負け犬予備軍の結婚に対する意識の差

(5) 勝ち犬予備軍と負け犬予備軍の恋人・配偶者の重視条件について

### Ⅲ章 まとめ

1. まとめ

2. 今後の課題

### 参考文献・資料

### 付表

1. 調査票

2. 発表資料

# 1章 研究の背景と方法

## 1 研究の背景

現在日本が抱える最重要課題のひとつとして、少子化の問題があげられている。日本は世界の中でもイタリアやドイツに次ぐ少子化の進んだ国とされ、このまま少子化が進行すると、日本はいずれ消滅する事態になりかねない。少子化の原因は何か。景気が悪く、経済的に子供を多く生む余裕が無いということもあるかもしれないが、少子化を招く最も大きな要因となっているのは、「晩婚化」と「未婚化」である。80年代位までは、夫が外で働いて家計を支え、妻は家事や子育てに専念することがごく自然だった。女性が男性と同じ様に教養を高めるという習慣が無かった頃は、女性は生きる為に結婚し、結婚することがごく当たり前と捉えていた。それが現代は、女性も大学進学や、社会に進出するようになり、結婚して男性の経済力に頼らなくても、十分に生活していけるだけの能力を身に付け始めた。

現代の女性の生き方に、よりよく生きるために、あえて結婚しないという選択肢が加わり、独身女性の存在が急激に目立つようになってきた。現代女性には結婚しない自由が許されるようになったのだ。

しかしこのことが、晩婚化や未婚化につながり、結婚しないと子どもを生まない傾向にある日本では、出生率に直接的な影響を与えている。

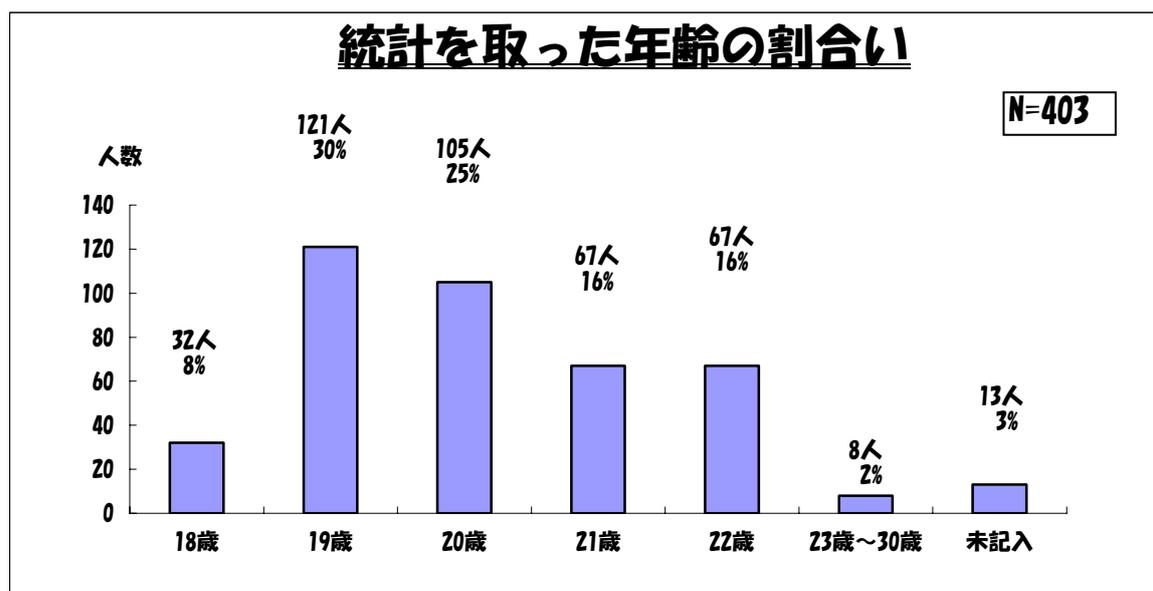
最近では、『負け犬の遠吠え』（酒井順子著 2003年発行 講談社）という本から、未婚、子ナシの三十代前後の女性を指す代名詞として、‘負け犬’というカテゴリーが誕生し、雑誌やメディアなどをにぎわせた。

本論文ではこの‘負け犬’に注目し、以下の3点を明らかにすることを目的とした。

- ① 負け犬予備軍と勝ち犬予備軍によって恋愛観結婚観の意識に違いがあるのかを明らかにする。
- ② 彼氏（恋人）の有無は恋愛観結婚観の意識に影響して違いが出るのかを明らかにする。
- ③ 恋愛観結婚観の違いにより女子大生のタイプを分類しその特徴を明らかにする。

## 2 調査の概要

平成17年12月に、十文字学園女子大学と、首都圏の4年制大学に通っている学生を対象として、アンケート調査を実施した。調査項目は、「Ⅰ. 恋愛・結婚に関する意識と実態」「Ⅱ. 普段の行動」「Ⅲ. アンケート回答者の年齢」の3つである。Ⅰ-1、Ⅰ-6の質問は、5段階評価法を用いた。回答書式は、「1」全く思わない、「2」あまり思わない、「3」どちらでもない、「4」そう思う、「5」かなりそう思う、の5段階に設定した。Ⅰ-2、Ⅰ-3、Ⅲの質問は、記述してもらう方法を用いた。Ⅰ-4、Ⅰ-5、Ⅱの質問は、一番当てはまると思う番号に丸をつけてもらう方法を用いた。Ⅰ-7、Ⅰ-8の質問は、選択肢の中から5つ選び、重要度の高い順に順位(1~5)を記入する形式を用いた。有効サンプル数は403である。しかし、各分析においては、必要な項目に無回答であるデータを含まないため、サンプル数に変化が生じている。調査対象の属性については、年齢のみ調査した。下の図に示したとおりである。内訳は、「18歳」が32人で全体の8%、「19歳」が121人で全体の30%、「20歳」が105人で全体の25%、「21歳」が67人で全体の16%、「22歳」が67人で全体の16%、「23歳~30歳」が8人で全体の2%、「未記入」が13人で全体の3%であった。



図表 I - 1

### 3 分析の方法

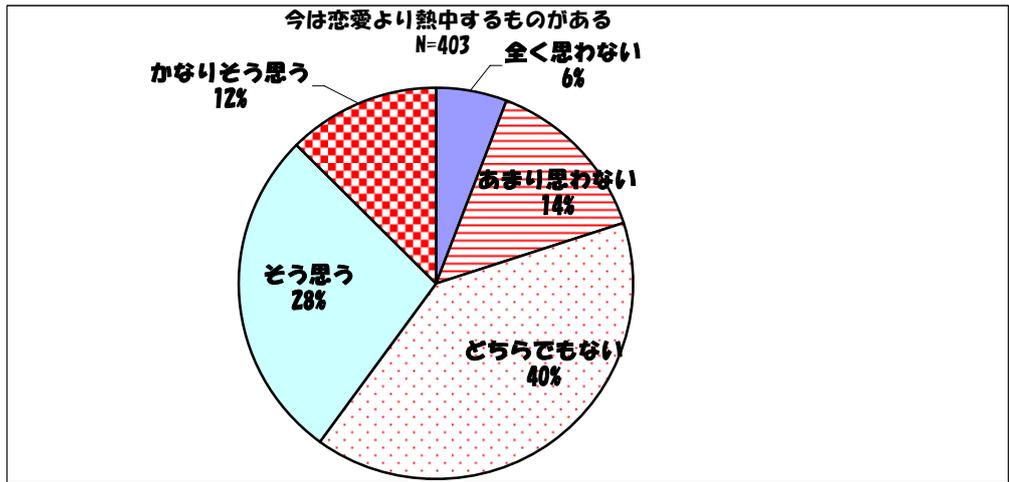
「1. 女子大生の恋愛観・結婚観に対する意識調査」では、度数分布（割合）を求めるとともに恋人の有無により回答に差があるのかを調べるために分散分析を行った。また、恋人と配偶者の重視条件では、恋人と配偶者の条件について重視するものを12個の中から5個選んで重要度の高い順に順位1位から5位までをつけてもらい、1位を5点、2位4点、3位3点、4位2点、5位1点にしてポイント制で恋人の有無の違いを見た。「2. 女子大生の恋愛の実態について」では、各項目において度数分布（割合）を求めた。「3. 因子タイプ別恋愛観・結婚観について」では、恋愛観・結婚観に対する意識を分析し、さらに因子分析を行い6因子を抽出した。因子抽出については主因子法を用い、抽出後バリマックス回転を行った。また、因子ごとに因子タイプ別恋愛観・結婚観について差があるのかを調べるために、それぞれの項目において度数分布（割合）を求めるとともに因子タイプにより回答に差があるのかを調べるために分散分析を行った。「4. 勝ち犬予備軍と負け犬予備軍の恋愛観・結婚観について」では、本に載っている項目を参考にして、普段の行動についての調査をし、16個のチェック項目を設け、「はい」が8個以上当てはまる場合は負け犬予備軍とし、その数が多いほど負け犬予備軍度は高くなり、8個未満の人は勝ち犬予備軍とした。そして、各項目において度数分布（割合）を求めるとともに負け犬予備軍と勝ち犬予備軍により回答に差があるのかを調べるために分散分析を行った。また、恋人と配偶者の重視条件では、恋人と配偶者の条件について重視するものを12個の中から5個選んで重要度の高い順に順位1位から5位までをつけてもらい、1位を5点、2位4点、3位3点、4位2点、5位1点にしてポイント制で負け犬予備軍と勝ち犬予備軍の違いを見た。統計処理はSPSSを使用し、必要に応じてExcelによるグラフ作成を行った。

## **11章 結果と考察**

# 1. 女子大生の恋愛観結婚観に対する意識調査

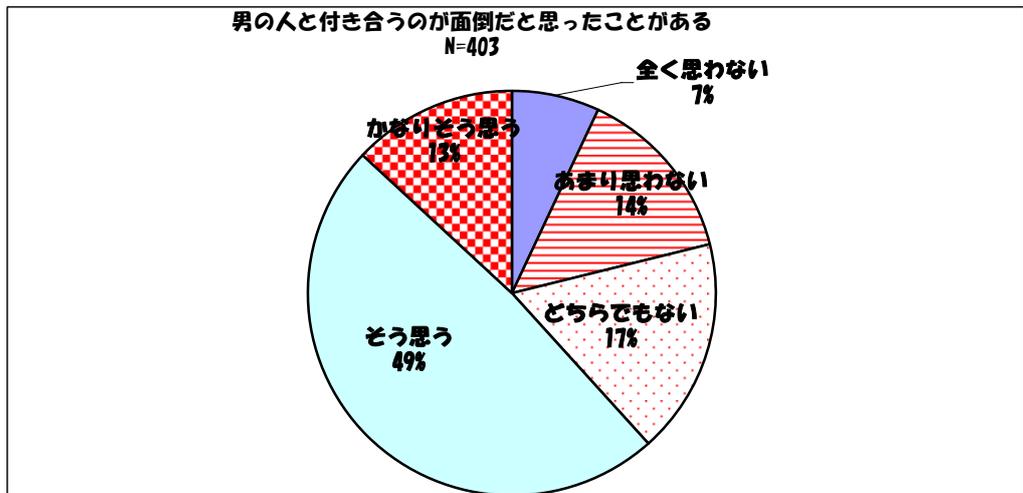
## (1) 女子大生の恋愛観について

図表Ⅱ-1-1は、「今は恋愛より熱中するものがある」という質問に対する回答を円グラフで表したものである。約半数の人が恋愛よりも熱中する趣味や習い事などがあり、充実した生活を送っていることが伺える。



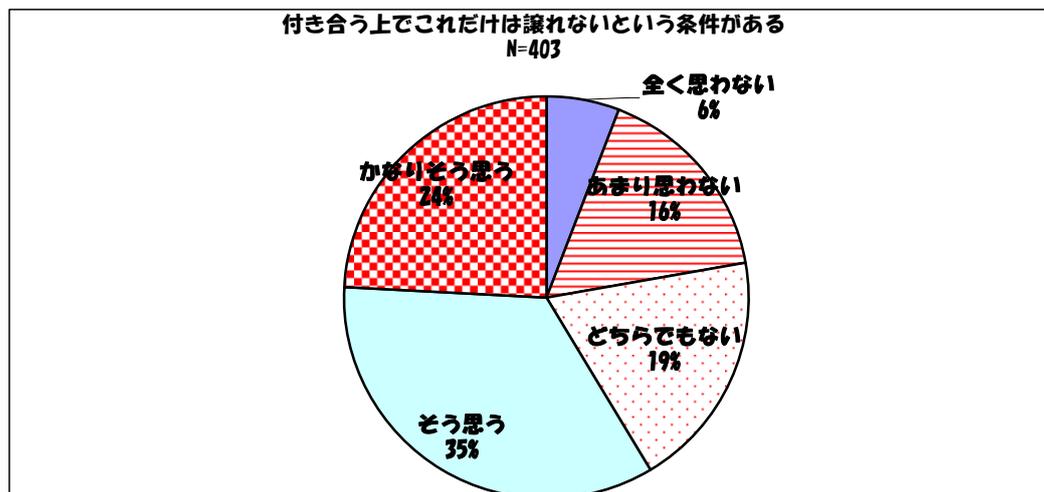
図表Ⅱ-1-1

図表Ⅱ-1-2は、「男の人と付き合うのが面倒だと思ったことがある」という質問に対する回答を円グラフで表したものである。ほとんどの人が「そう思う」と答えており誰もが一度は男性との付き合いが面倒だと思ったことがあるということがわかった。



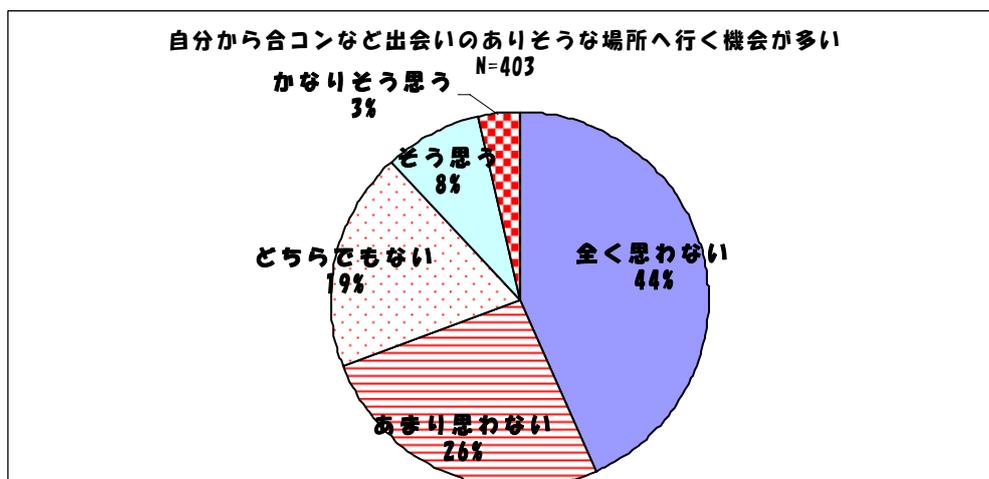
図表Ⅱ-1-2

図表Ⅱ－１－３は、「付き合う上でこれだけは譲れないという条件がある」という質問に対する回答を円グラフに表したものである。全体の約60%がそう思うと答えており皆、恋人を選ぶ上で何らかの条件を持っているといえる。



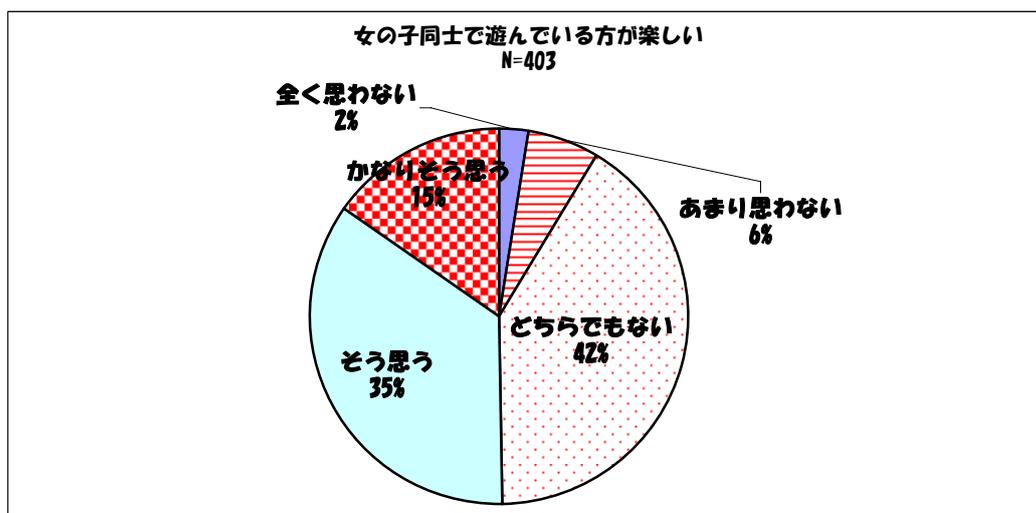
図表Ⅱ－１－３

図表Ⅱ－１－４は、「自分から合コンなど出会いのありそうな場所へ行く機会が多い」という質問に対する回答を円グラフに表したものである。全体の70%の人が合コンなど出会いのありそうな場所に行かないと答えており、消極的な人が多く自然な出会いを求めるようである。



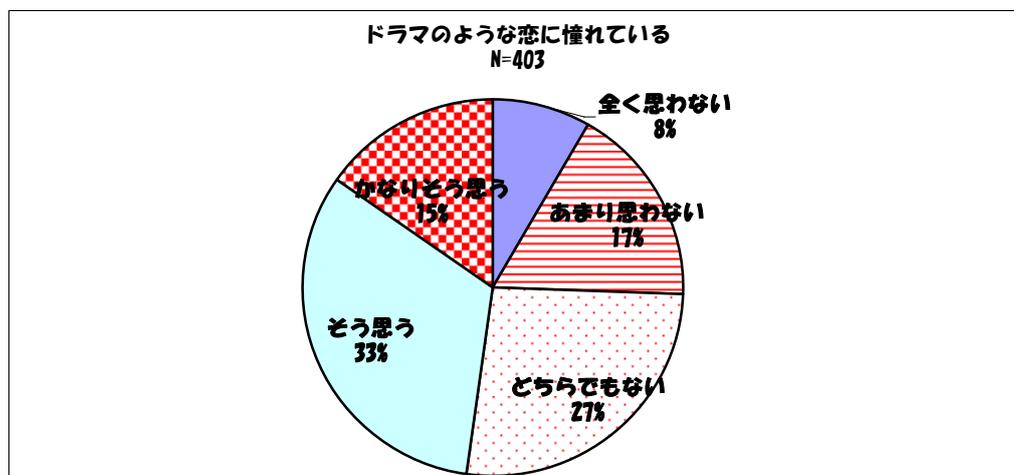
図表Ⅱ－１－４

図表Ⅱ－１－５は、「女の子同士で遊んでいる方が楽しい」という質問に対する回答を円グラフに表したものである。十文字学園女子大学でサンプルを多数とったためか、女の子同士で遊ぶほうが楽しいと答えた人と、どちらでもない人が大多数を占めた。これは図表Ⅱ－１－５の「男の人と付き合うのが面倒だと思ったことがある」という質問の回答を反映している結果であるといえる。



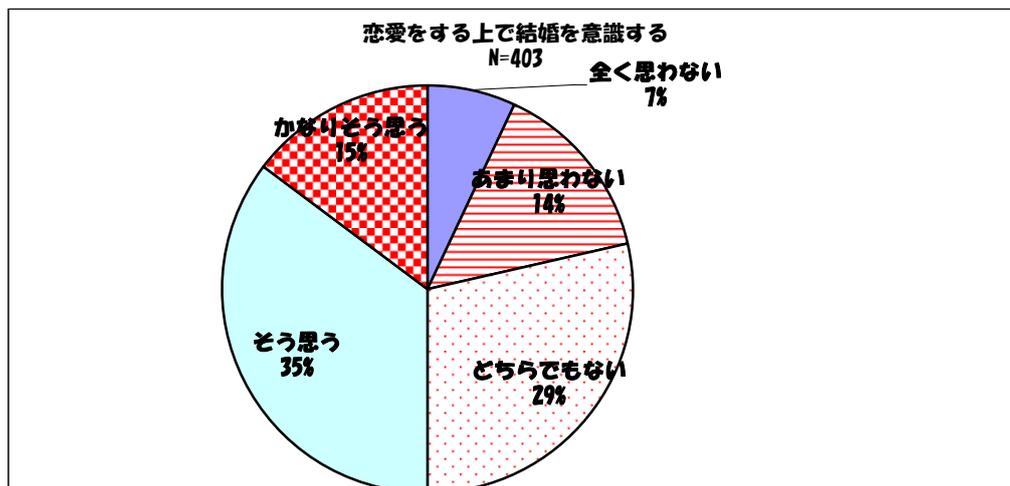
図表Ⅱ－１－５

図表Ⅱ－１－６は、「ドラマのような恋愛に憧れている」という質問に対する回答を円グラフに表したものである。回答から２人に一人はドラマのような恋愛に憧れていることがわかった。



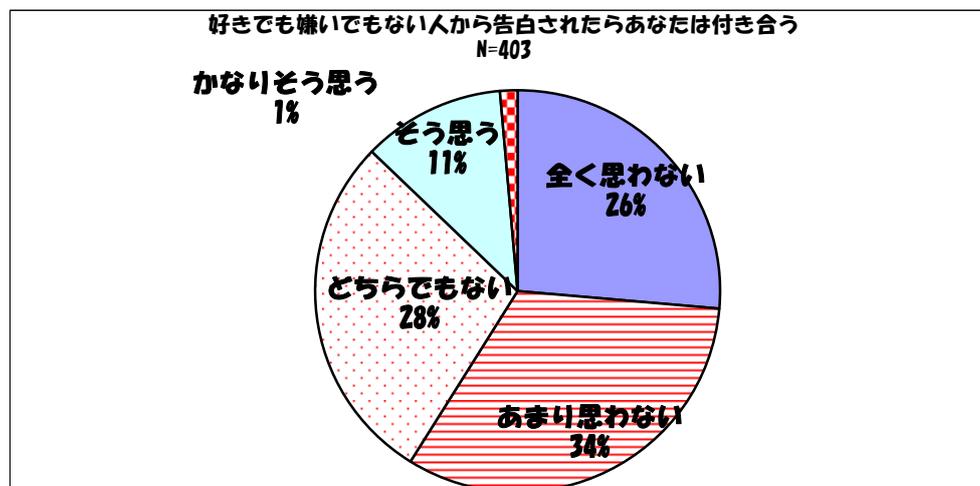
図表Ⅱ－１－６

図表Ⅱ－１－７は、「恋愛をする上で結婚を意識する」という質問に対する回答を円グラフに表したものである。約半数以上の人々が「そう思う」と答えており、ほとんどの人が恋愛の延長線上に結婚があると考えているといえる。



図表Ⅱ－１－７

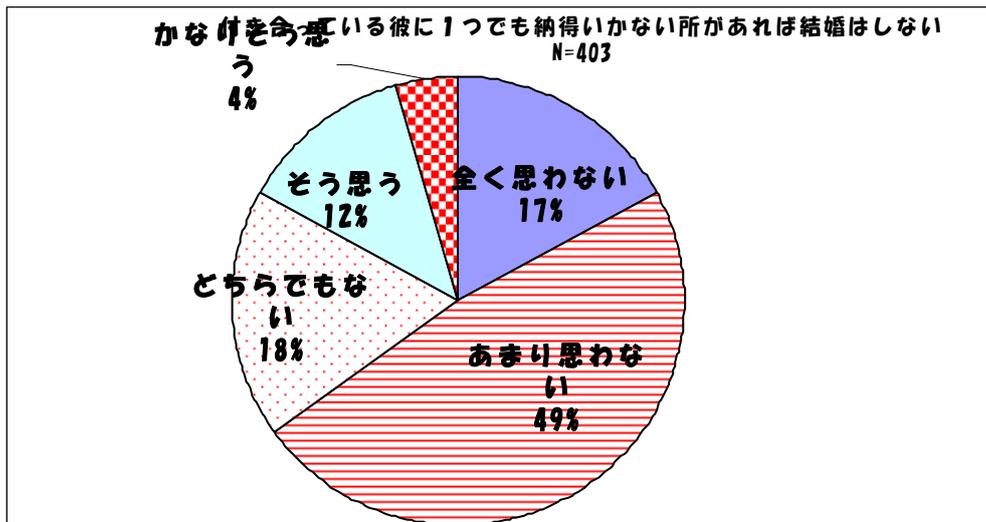
図表Ⅱ－１－８は、「好きでも嫌いでもない人から告白されたらあなたは付き合う」という質問に対する回答を円グラフに表したものである。好きでも嫌いでもないという表現が曖昧だったためか、答えにばらつきが見えた。3つに分けると、そう思うが12%、そう思わないが60%、どちらでもないが28%という結果になった。この結果から、好きな人でないと付き合わない人が多数いるということがわかった。



図表Ⅱ－１－８

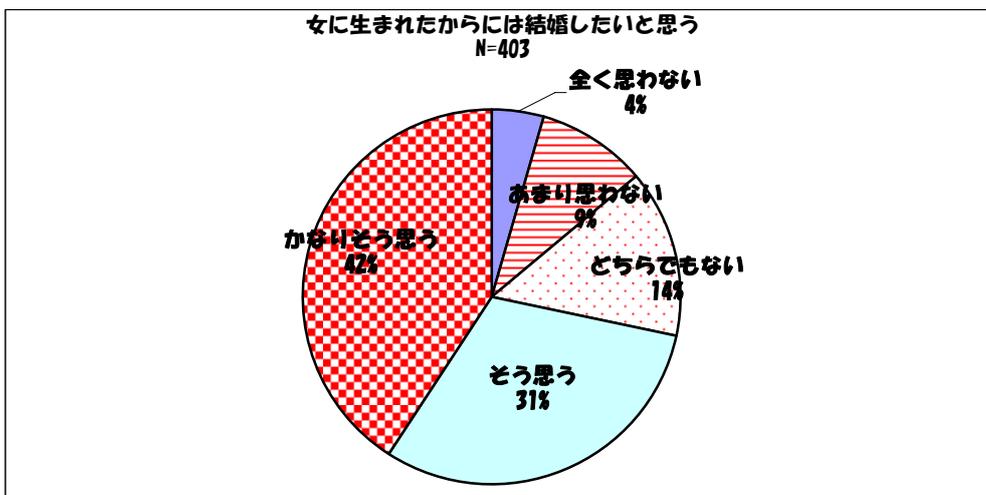
(2) 女子大生の結婚観について

図表Ⅱ－１－９は、「付き合っている彼に1つでも納得いかない所があれば結婚はしない」という質問に対する回答を円グラフに表したものである。結婚するにあたって66%の人は一つくらい納得できない所があっても結婚すると答えていることから柔軟性があることが伺える



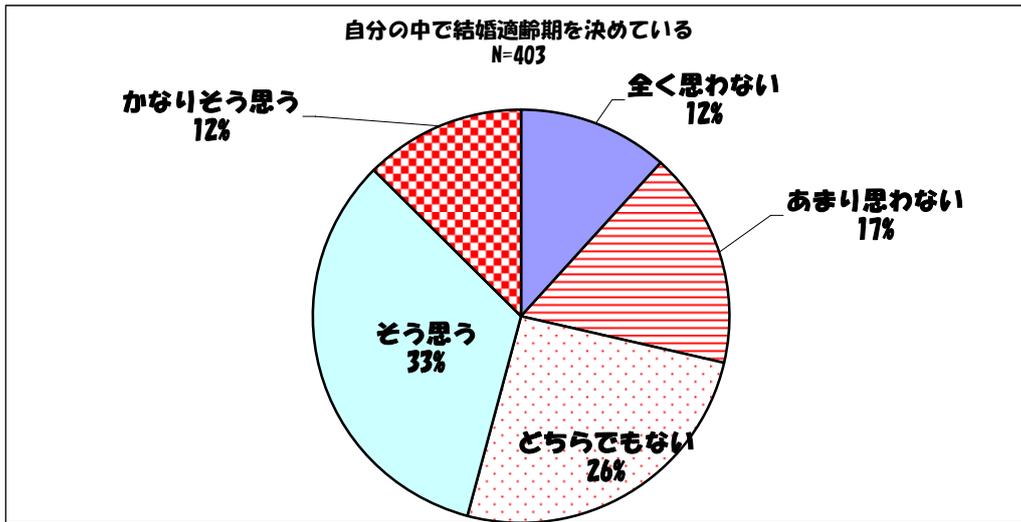
図表Ⅱ－１－９

図表Ⅱ－１－１０は、「女に生まれたからには結婚したい」という質問に対する回答を円グラフに表したものである。全体の約70%以上の方が、女に生まれたからには結婚したいと答えた。このことから、ほとんどの人に結婚願望があるといえる。



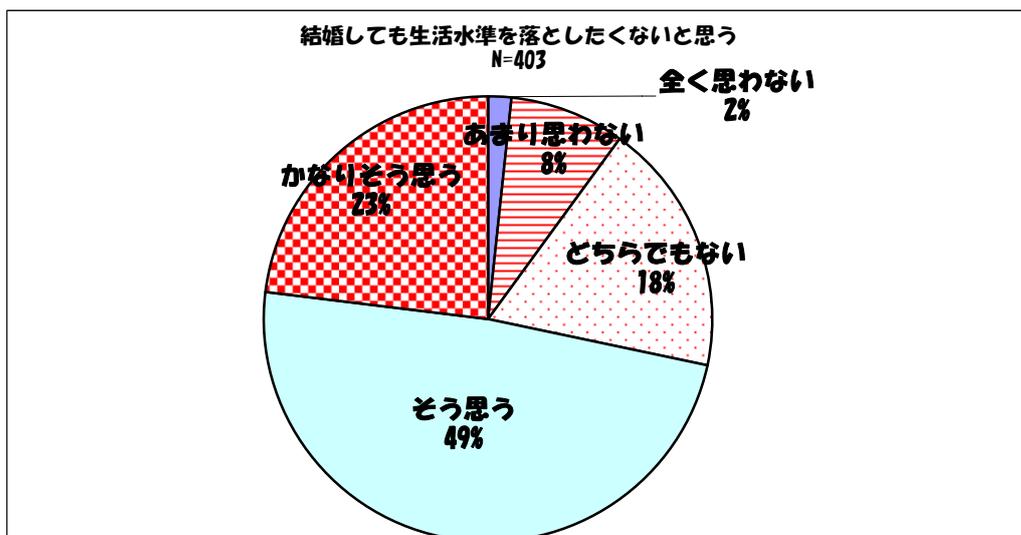
図表Ⅱ－１－１０

図表Ⅱ－１－１は、「自分の中で結婚適齢期を決めている」という質問に対する回答を円グラフに表したものである。半数以上の人々が結婚適齢期を決めており、大体の人が、何歳くらいで結婚しようかと考えていることがわかった。



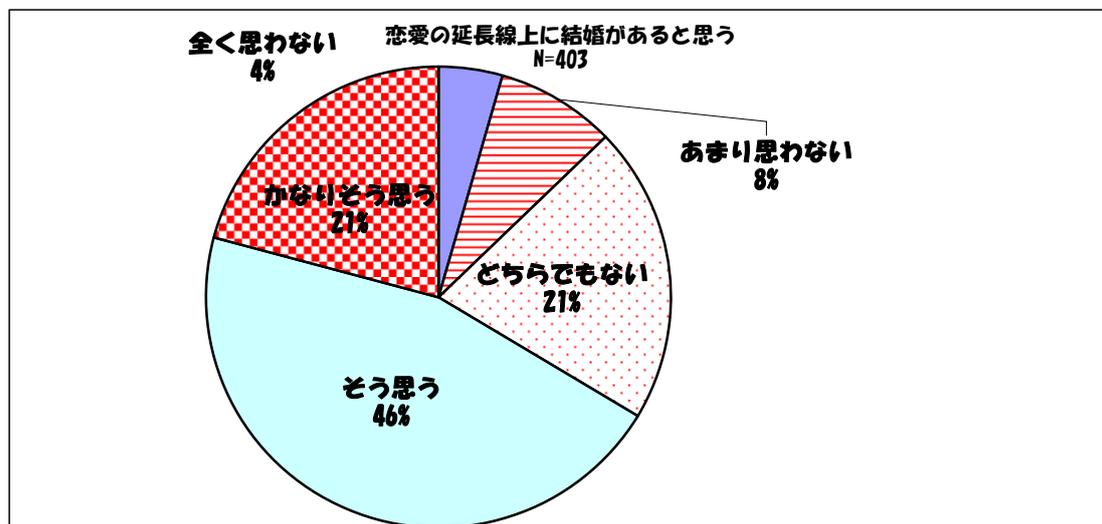
図表Ⅱ－１－１

図表Ⅱ－１－１２は、「結婚しても生活水準を落としたいか」という質問に対する答えを円グラフに表したものである。その結果、72%の人が結婚しても生活水準を落としたいと思っていないことがわかった。これは、結婚相手を選ぶ時にも重要となる要素だと考えられる。



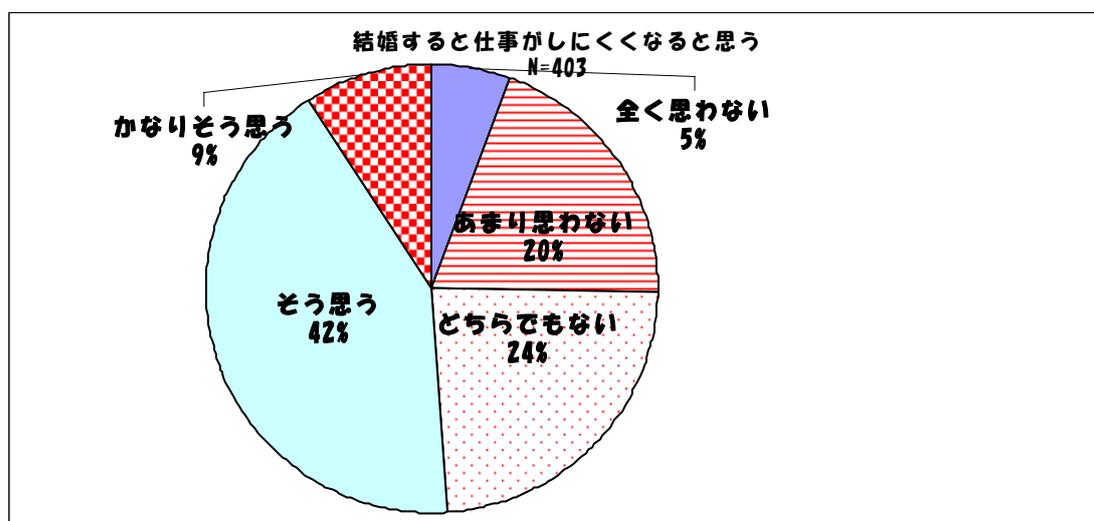
図表Ⅱ－１－１２

図表Ⅱ－１－１３は、「恋愛の延長線上に結婚がある」という質問に対する答えを円グラフに表わしたものである。「そう思う」と答えた人は67%で、多くの人が恋愛する上で結婚を意識しているということがわかった。



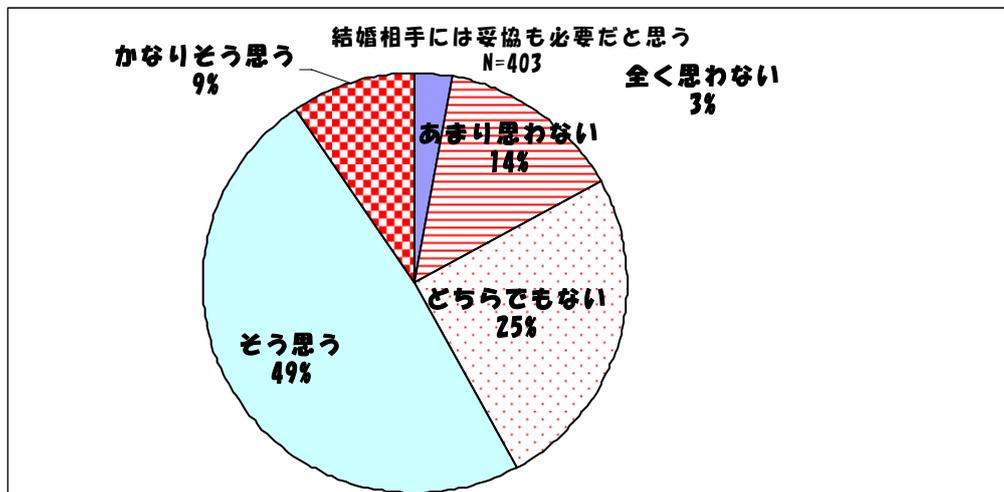
図表Ⅱ－１－１３

図表Ⅱ－１－１４は、「結婚すると仕事がしにくくなる」という質問に対する回答を円グラフに表したものである。仕事がしにくくなると考えている人は約50%で、現代の晩婚化の原因の一つだと考えられる。



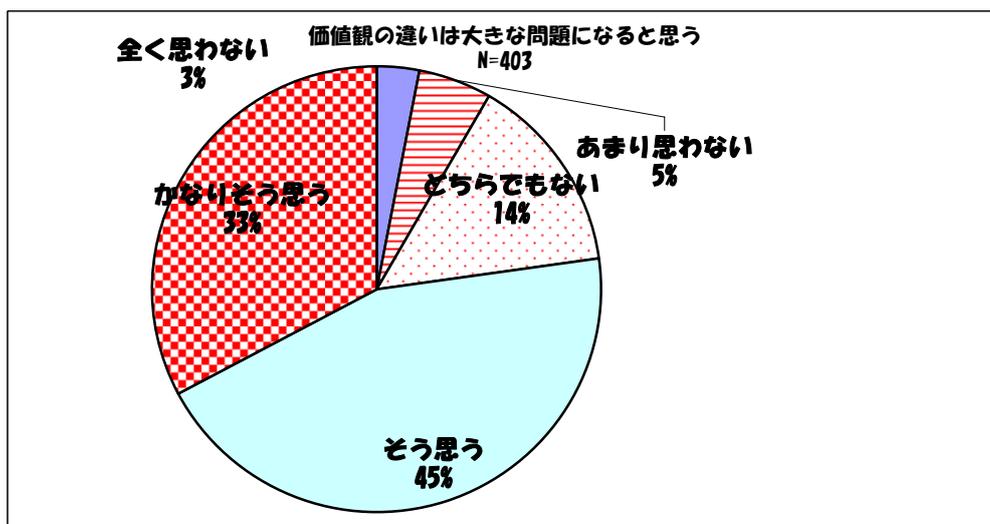
図表Ⅱ－１－１４

図表Ⅱ－１－１５は、「結婚相手に妥協は必要である」という質問に対する回答を円グラフで表したものである。「そう思う」と考えているのは全体の約60%で、完璧な人を求めている人はごく少数だということがわかった。



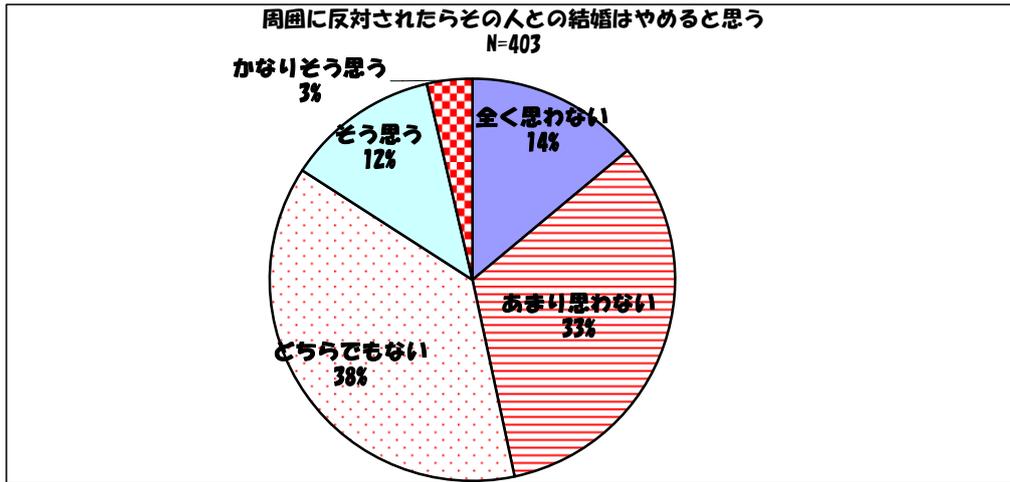
図表Ⅱ－１－１５

図表Ⅱ－１－１６は、「価値観の違いは大きな問題になる」という質問に対する答えを円グラフで表したものである。「そう思う」と答えた人は全体の約80%であった。離婚の原因として、価値観の違いが多くあげられるが、それを裏付ける結果となった。



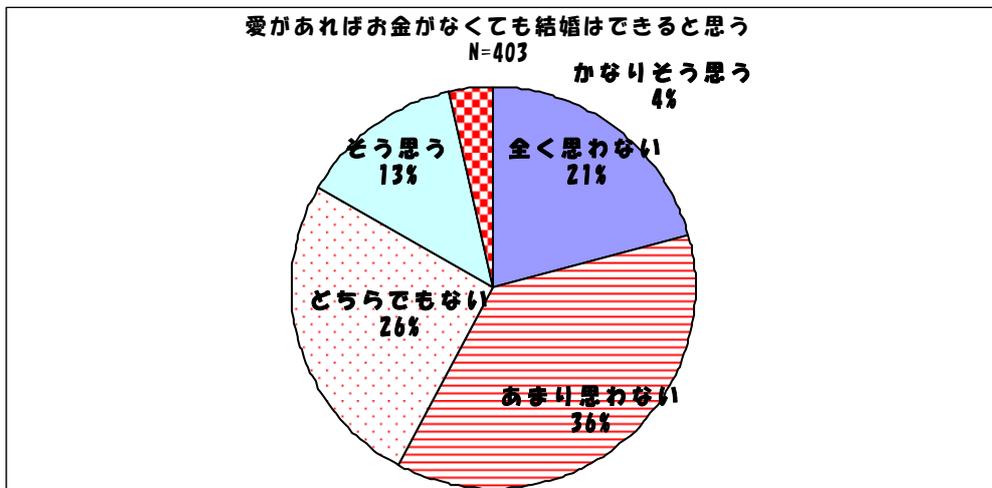
図表Ⅱ－１－１６

図表Ⅱ－１－１７は、「周囲に反対されたらその人との結婚はやめよう」という質問に対する回答を円グラフに表したものである。「そう思う」と答えた人は全体の１５％であった。「そう思わない」と答えた人は４７％と約半数で、周囲に反対されても結婚するという人が意外にも多く結果は予想外であった。



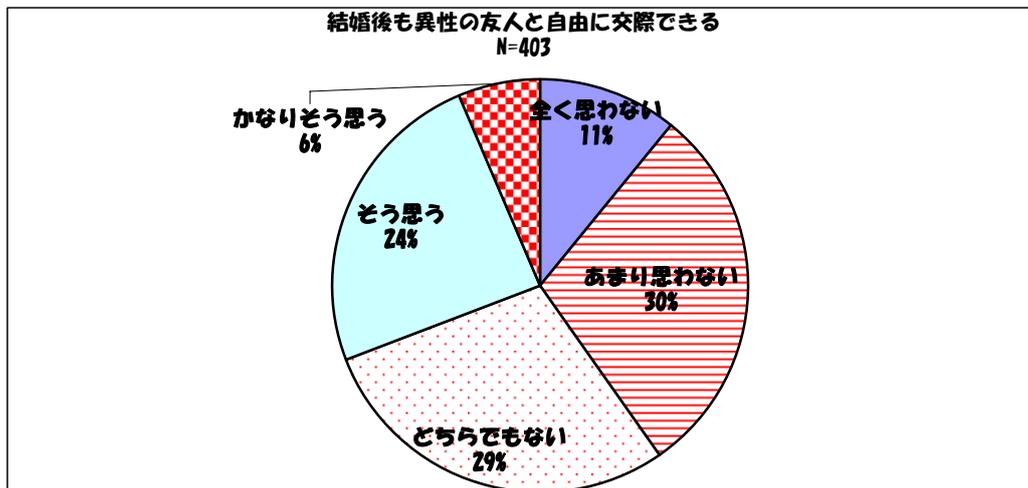
図表Ⅱ－１－１７

図表Ⅱ－１－１８は、「愛があればお金がなくても結婚できる」という質問に対する回答を円グラフで表したものである。結婚できると答えた人は１７％で、結婚できないと答えた人は５７％という結果になった。フリーターやニートなど、若い人が職につかないことが問題視されている現代だが、やはり愛だけでは生活できないと考える人が多くいるようだ。



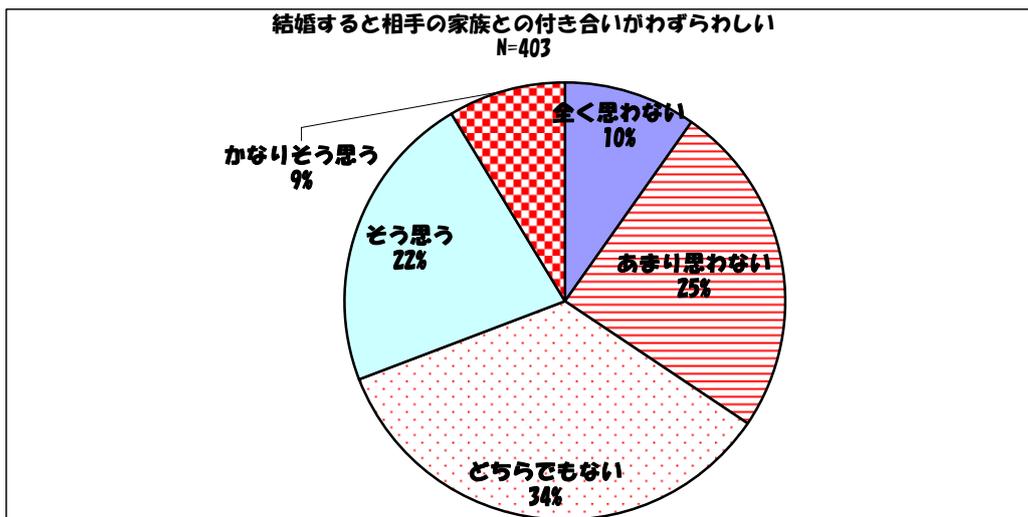
図表Ⅱ－１－１８

図表Ⅱ－１－１９は、「結婚後も異性の友人と自由に交際できる」という質問に対する回答を円グラフで表したものである。自由に交際できると答えた人は１７％で、自由に交際できないと答えた人は４０％であった。多くの人が結婚後は異性の友人と交際できないと考えていることがわかった。



図表Ⅱ－１－１９

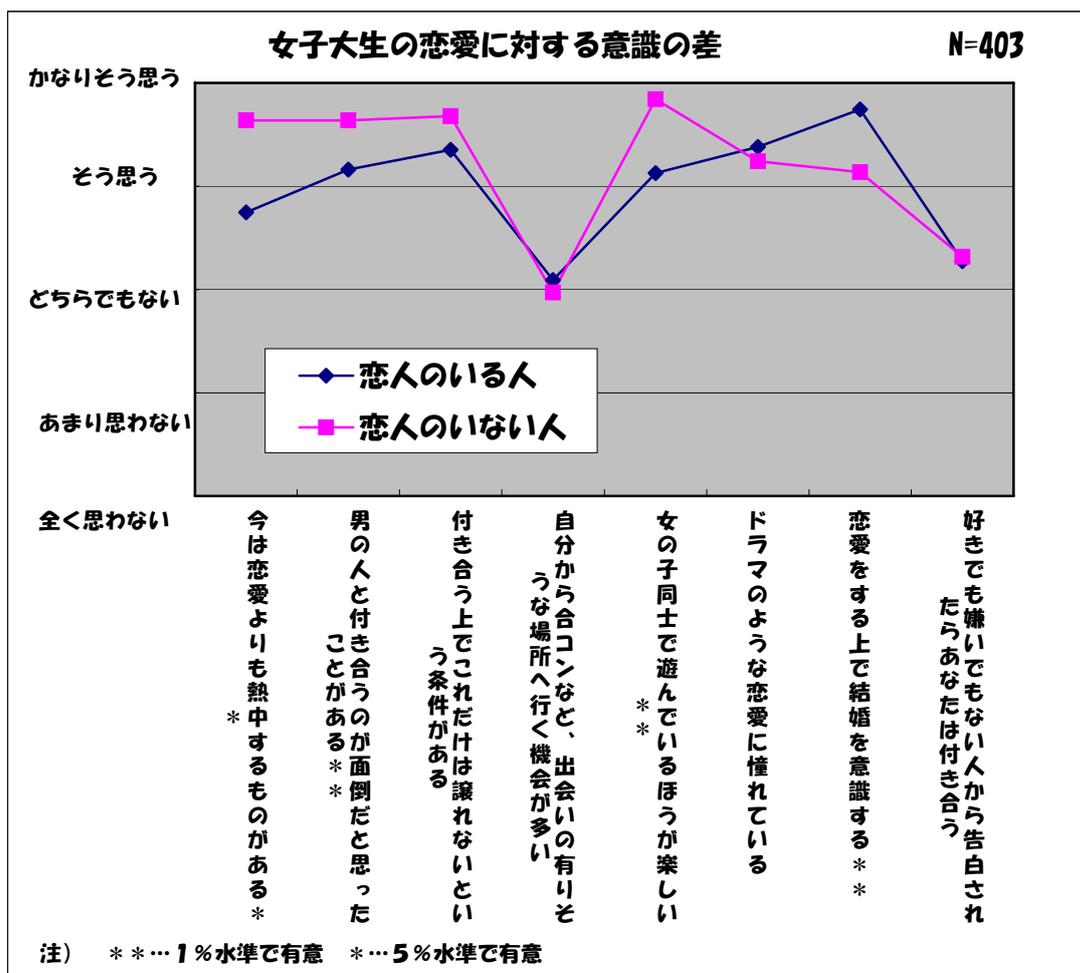
図表Ⅱ－１－２０は、「結婚すると相手の家族との付き合いが煩わしい」という質問に対する回答を円グラフで表したものである。この質問は、「そう思う」３１％「どちらでもない」３４％「思わない」３５％と回答にばらつきが出た。



図表Ⅱ－１－２０

### (3) 女子大生の恋愛に対する意識の差

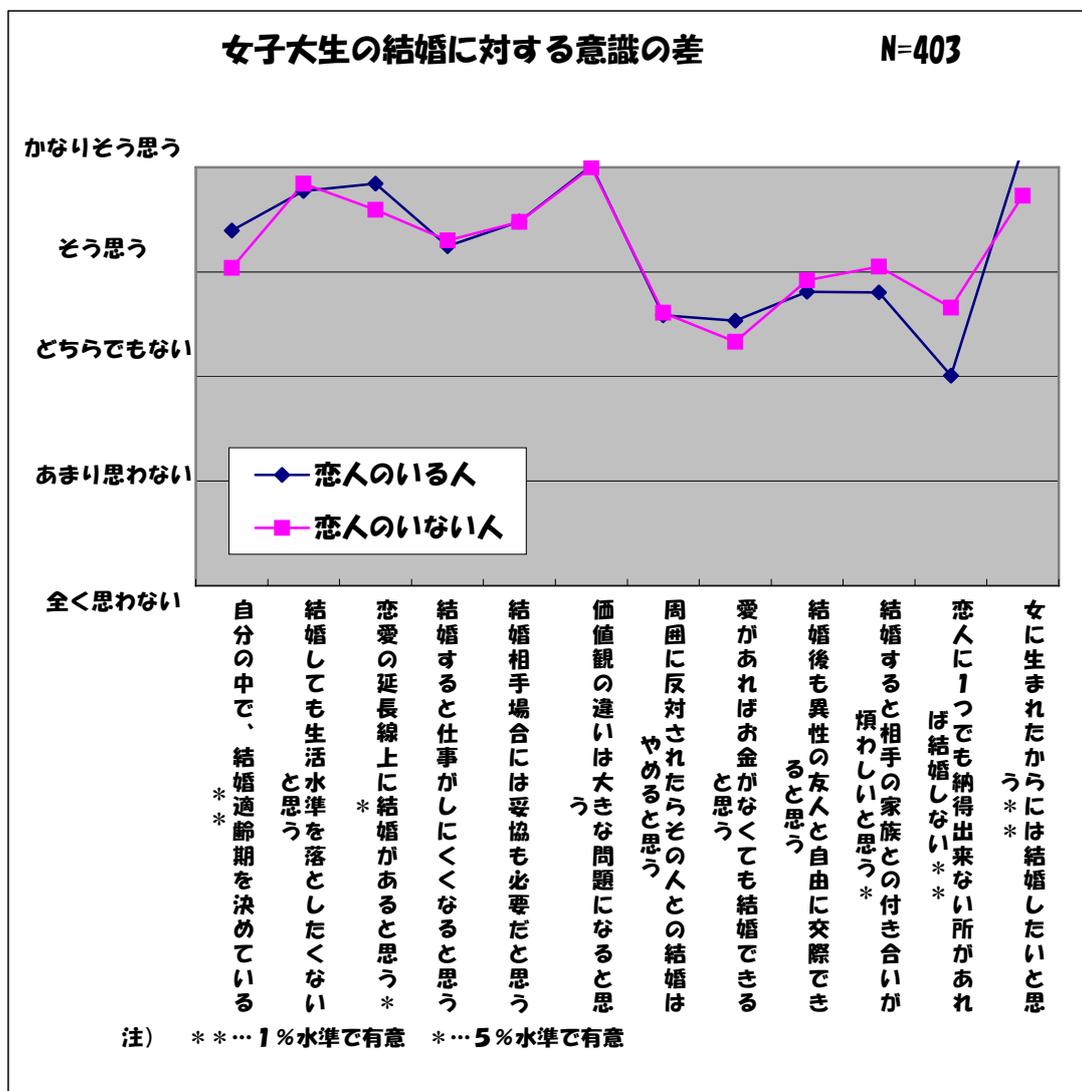
図表Ⅱ-1-21は、恋愛に関する8項目の質問をし、恋人のいる人といない人では恋愛に対する意識の差があるかどうかを調べるためにその回答を平均の比較を図って折れ線グラフで表したものである。その結果、恋人のいない人の方が、異性と付き合うより女の子同士で遊んでいるほうが楽しいと答えた人が多かった。また、「付き合う上でこれだけは譲れないという条件がある」という質問でも、「そう思う」と答える人が恋人のいない人の方が多く、恋人のいる人よりも理想が高いことが伺える。そして、「恋愛をする上で結婚を意識する」という質問では、「そう思う」と答えた人が恋人のいる人の方が明らかに多かった。やはり、恋人がいる人の方が結婚を想像しやすいようである。



図表Ⅱ-1-21

#### (4) 女子大生の結婚に対する意識の差

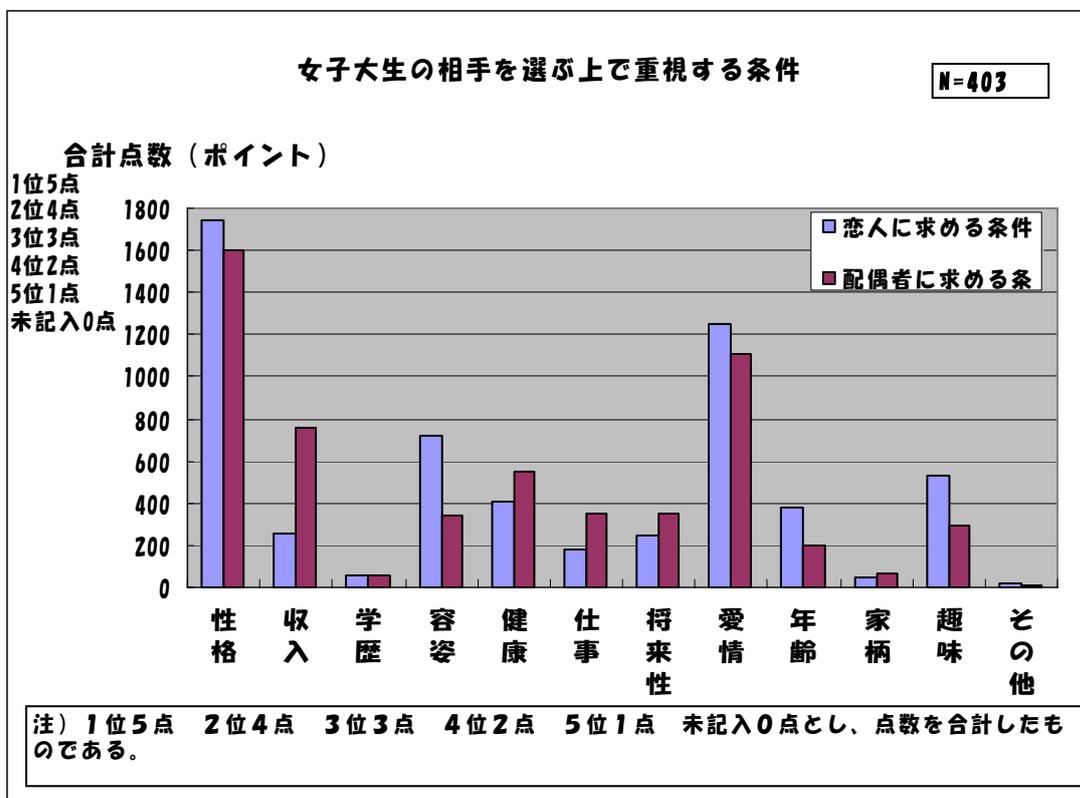
図表Ⅱ－1－22は、結婚に関する12項目の質問をし、恋人のいる人といない人では結婚に対する意識の差があるかどうかを調べるためにその回答を平均の比較を図って折れ線グラフで表したものである。まず、「付き合っている彼に1つでも納得がいかない所があれば結婚はしない」という質問では、恋人のいない人の方が「そう思う」と答えた人が多かった。恋人のいない人の方が結婚相手に対して厳しい目を持っているようである。その他の質問では、恋愛に関する意識の結果に比べ、結婚はまだ経験していないことから恋人のいる人といない人とではあまり目立った差は無かった。



図表Ⅱ－1－22

### (5) 恋人・配偶者の重視条件について

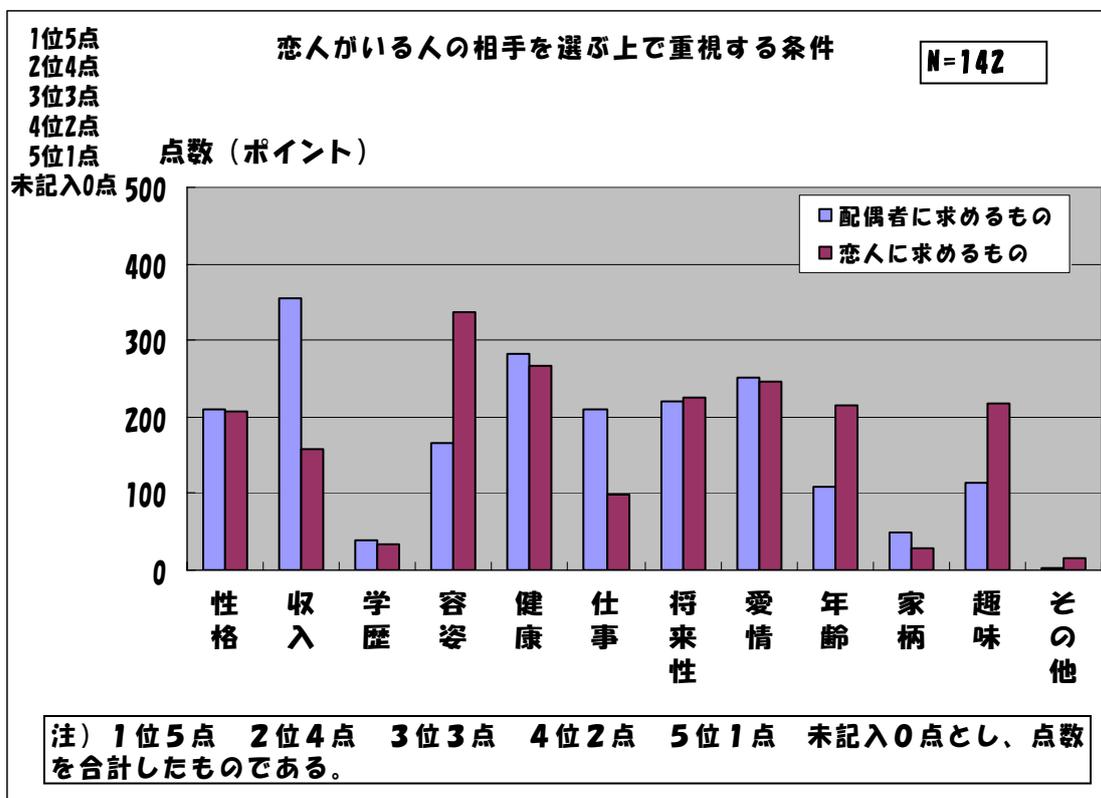
図表Ⅱ－１－２３は、恋人の条件と配偶者の条件について重視するものを、性格、収入、学歴、容姿、健康、仕事、将来性、愛情、年齢、家柄、趣味、その他の中から5つ選んで重要度の高い順に順位を1位から5位までつけてもらい、1位5点、2位4点、3位3点、4位2点、5位1点で集計した結果を棒グラフに表したものである。まず、恋人に求める条件・配偶者に求める条件共に支持が多かったのが、「性格」と「愛情」である。このことから、大学生が最も重視するのは、精神面の充実だということがわかる。また、恋愛と結婚で比較してみると、恋人に求めるものは、容姿・年齢・趣味において重視率が高いのに対し、配偶者に対しては、収入・健康・仕事・将来性など、家計を支えるために必要な項目に回答が集中した。この結果から、恋人には見た目の華やかさや、楽しさを求めるのに対し、配偶者には、家族を養う力や経済力があるかどうか重視されることが分かった。付き合っている時点では、見た目の華やかさや年齢、趣味を重視するが、いざ結婚となると、相手を選ぶ条件は恋人を選ぶ時とは条件に違いが出てくるということがわかった。



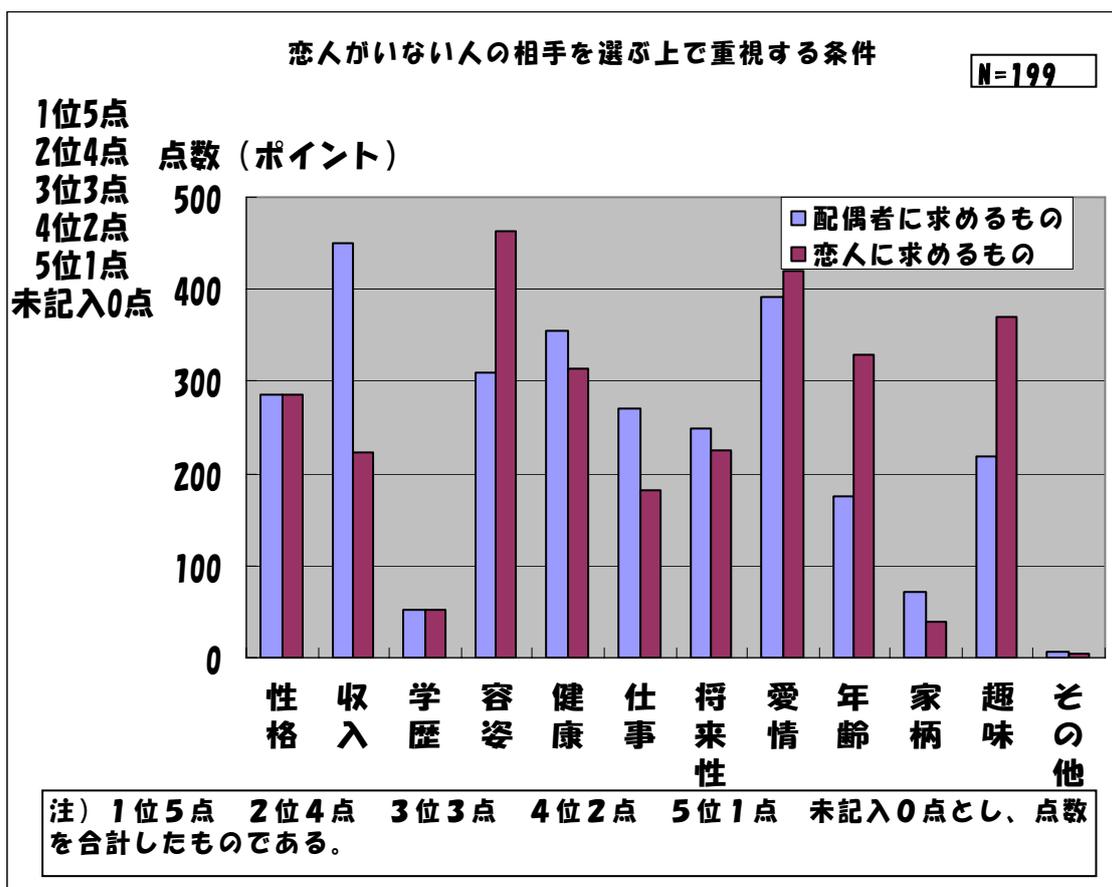
図表Ⅱ－１－２３

### (6) 恋人の有無による恋人・配偶者の重視条件について

図表Ⅱ－１－２４は恋人の条件と配偶者の条件について重視するものを、性格、収入、学歴、容姿、健康、仕事、将来性、愛情、年齢、家柄、趣味、その他の中から5つ選んで重要度の高い順に順位を1位から5位までつけてもらい、1位5点、2位4点、3位3点、4位2点、5位1点で集計した結果を棒グラフに表し、恋人がいる人の結果と恋人がいない人の結果を分けたグラフである。このグラフから恋人のいる人といない人では、相手を選ぶときに重視するものに違いが出るのかを調べた結果、以下のことがわかった。恋人のいる人は、相手を選ぶ上で重視することとして「容姿」「健康」「愛情」の順に重視している。そして、配偶者に求めるものとして「収入」「健康」「愛情」の順に重視するという結果になった。恋人がいない人が相手を選ぶ上で重視する条件は「容姿」「愛情」「趣味」の順であり、配偶者に求める条件は「収入」「愛情」「健康」の順に重視していることがわかった。このことから恋人に求めるものは、多少ばらつきが見られたものの、配偶者に求める条件は、恋人がいる人と恋人がいない人では差はないということがわかった。



図表Ⅱ－１－２４

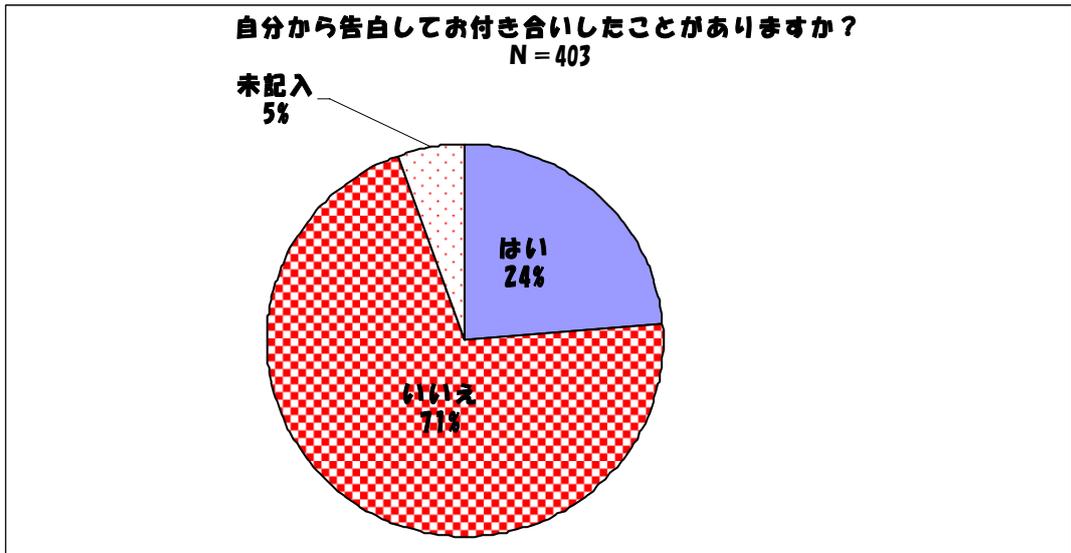


図表Ⅱ－1－25

## 2. 女子大学生全体の恋愛の実態について

### (1) 交際のきっかけについて

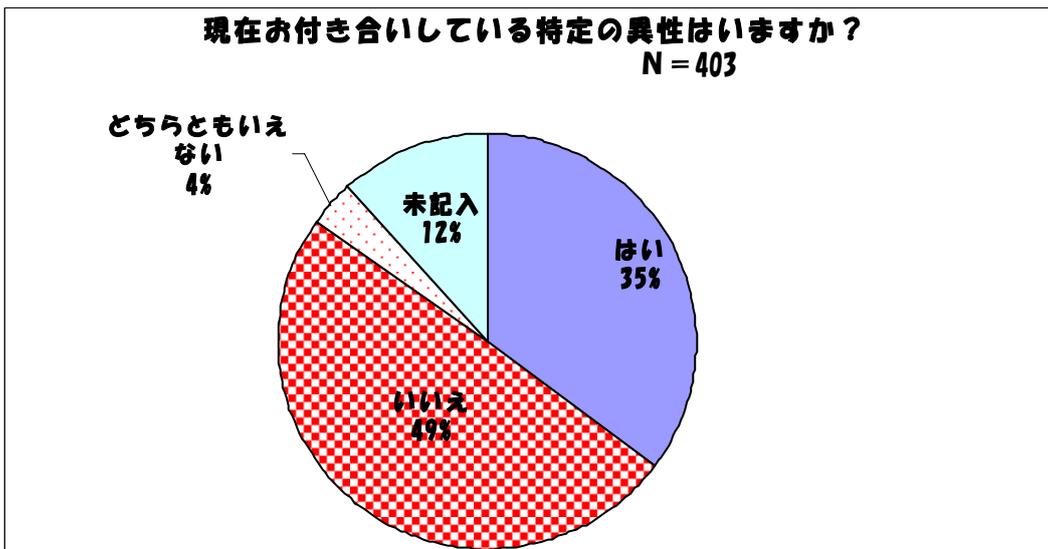
図表Ⅱ－2－1は、「自分から告白してお付き合いしたことがありますか」という質問に対する回答を円グラフに表したものである。全体の約25%の人が「はい」と答えているのに対し、約70%の人が「いいえ」と答え、お付き合いをする際に自分から積極的に行動を起こすより、相手からのアプローチを待ち、声をかけられるのを待っていると答える人が多いことがわかった。



図表Ⅱ－２－１

(2) 現在お付き合いしている特定の異性の有無

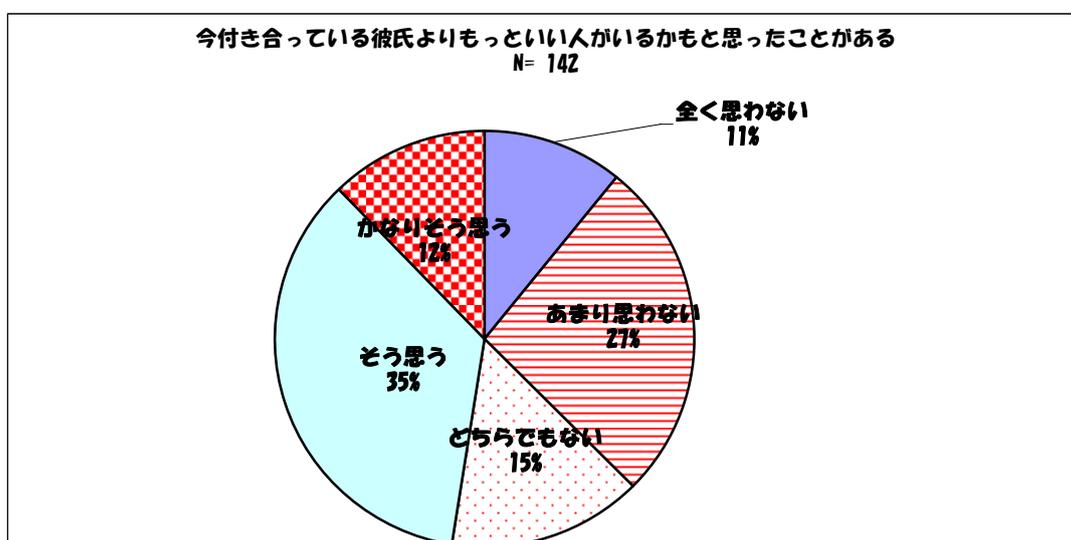
図表Ⅱ－２－２は、「現在お付き合いしている特定の異性はいますか」という質問に対する回答を円グラフに表したものである。全体の約35%が「はい」と答えたのに対し、50%が「いいえ」と答えた。この結果から、意外と恋人が居る人は少ないということが読み取れる。



図表Ⅱ－２－２

### (3) 現在お付き合いしている特定の異性について

図表Ⅱ－２－３は、「今付き合っている彼氏よりもっといい人がいるかと思ったことがある」という質問に対する回答を円グラフにあらわしたものである。「そう思う」と答えた人は全体の47%で、「そう思わない」と答えた人は全体の38%であった。この結果から、現在の女子大生の約半分が、現在お付き合いしている恋人より、もっといい人がいるのではないかと考えたことがあるということがわかる。



図表Ⅱ－２－３

図表Ⅱ－２－４は、「彼氏の浮気を知りたいと思ったことがある」という質問に対する回答を円グラフに表したものである。全体の約45%が「そう思う」と答え、34%が「そう思わない」と答えている。よって、お付き合いしている特定の異性がいる女子大生のうち、2人に1人は浮気を知りたいと思っていることがわかる。

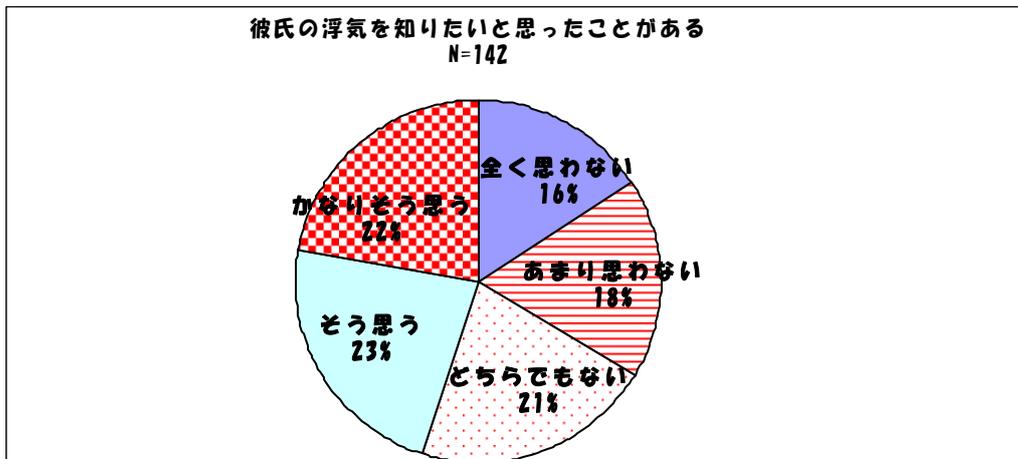
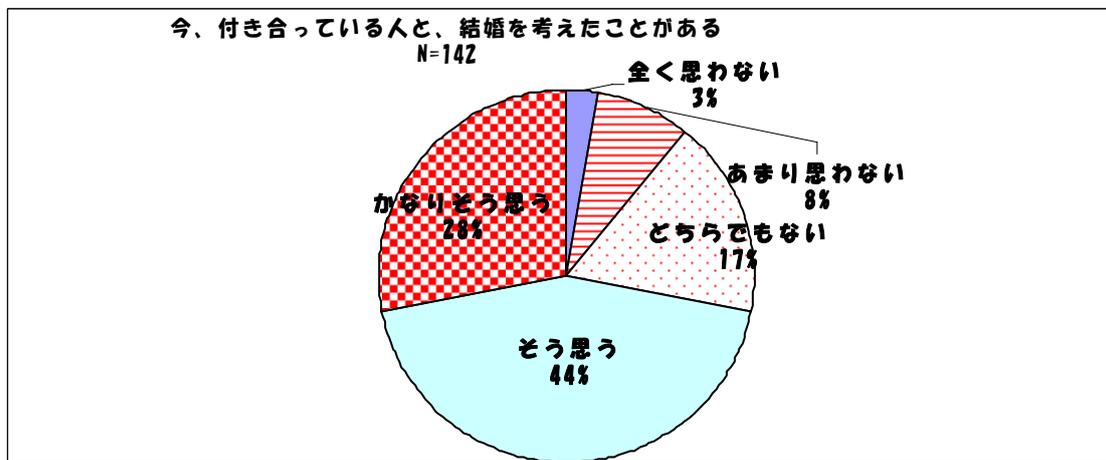


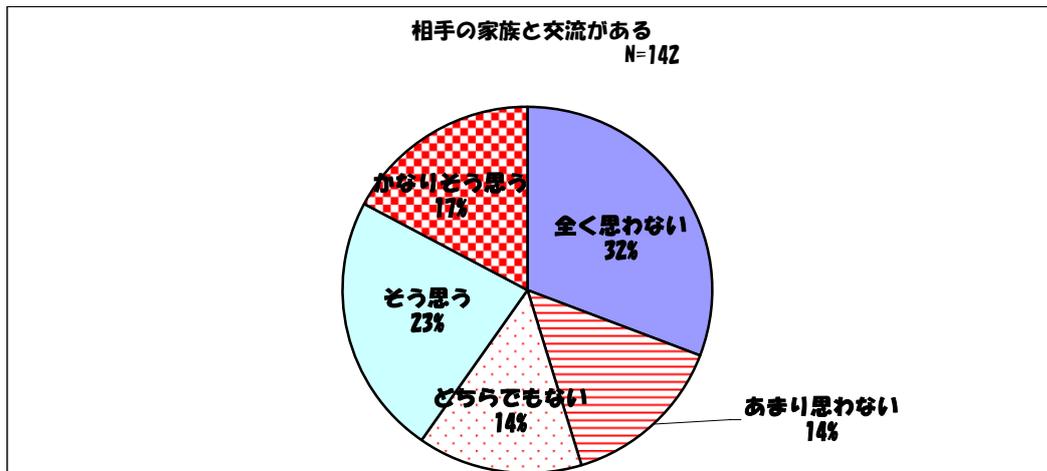
図 II - 2 - 4

図表 II - 2 - 5 は、「今、付き合っている人と結婚を考えたことがある」という質問に対する回答を円グラフに表したものである。全体の約 72% もの人が「そう思う」と答えている。この結果により、現在恋人のいる人は、ほとんどの人が結婚を考えたことがあるということがわかった。現代の女子大生は恋愛する上で、結婚も意識して相手を選んでいることが伺える。



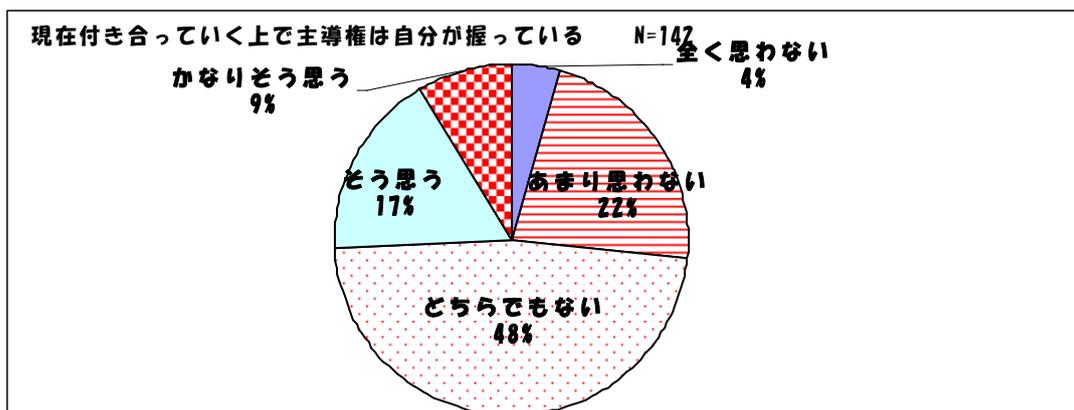
図表 II - 2 - 5

図表 II - 2 - 6 は、「相手の家族と交流がある」という質問に対する回答を円グラフに表したものである。全体の約 40% が「そう思う」と答え、46% が「あまり思わない」と答え、両方の意見にあまり差が見られなかった。恋愛をしている段階では、その特定の異性と家族ぐるみの付き合いをする人は半分程度だとわかる。



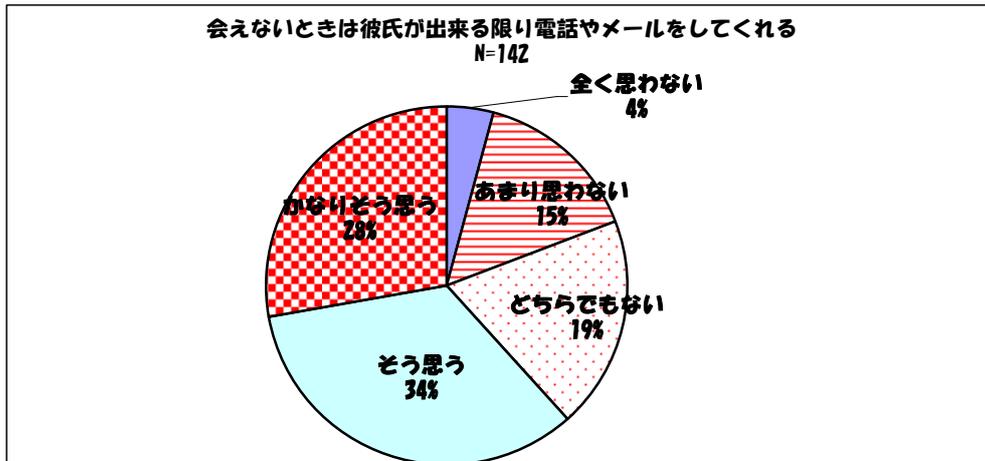
図表Ⅱ-2-6

図表Ⅱ-2-7は、「現在付き合っていく上で主導権は自分が握っている」という質問に対する回答を円グラフに表したものである。「そう思う」、「そう思わない」共に26%と、全く差が見られなかった。最も多かったのが、「どちらでもない」という答えであり、48%であった。主導権を自分が握っている人といない人が半々であり、「どちらでもない」という人が多かったことから、女子大生のほとんどが恋人と対等に付き合っているということが読み取れる。



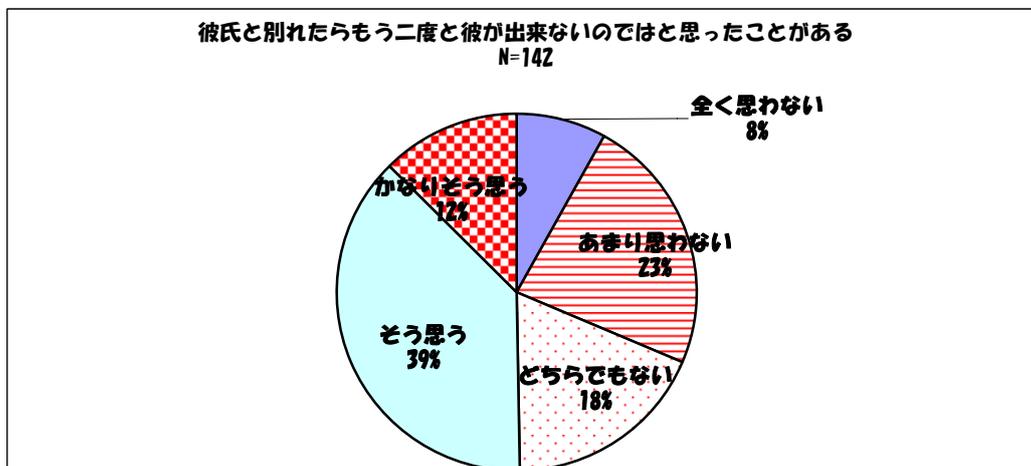
図表Ⅱ-2-7

図表Ⅱ-2-8は、「会えないときは彼氏が出来る限り電話やメールをしてくれる」という質問に対する回答を円グラフに表したものである。半数以上が「そう思う」と答え「どちらでもない」「そう思わない」と答えた人が19%と同数であった。連絡を取り合っているカップルが多いようである。



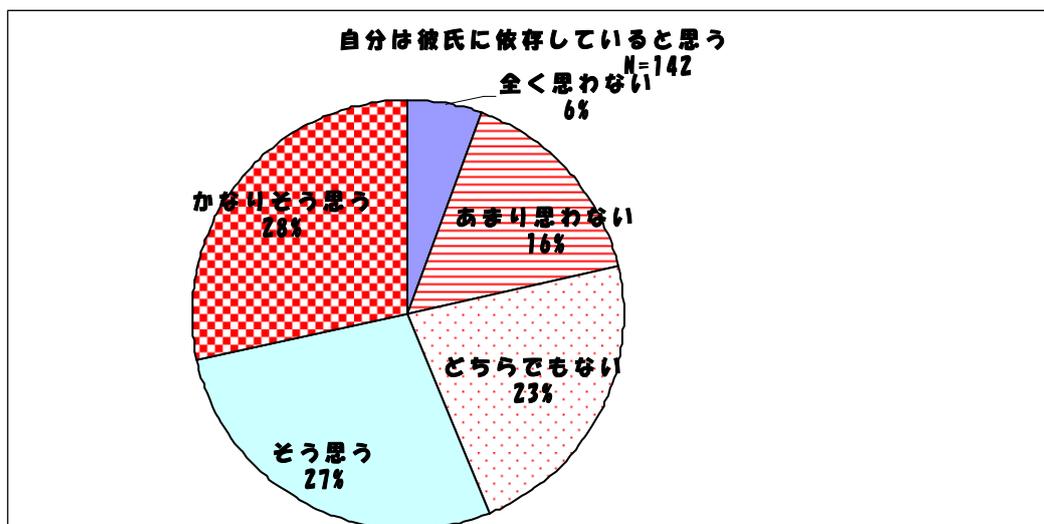
図表Ⅱ-2-8

図表Ⅱ-2-9は、「彼氏と別れたらもう二度と彼が出来ないのではと思ったことがある」という質問に対する回答を円グラフに表したものである。約半数が「そう思う」と答え、「そう思わない」と答えた人が31%であった。このことから、2人に1人の割合で、今の恋人と別れたらもう恋人ができないのではないかと思い、危機感を感じていることがわかる。



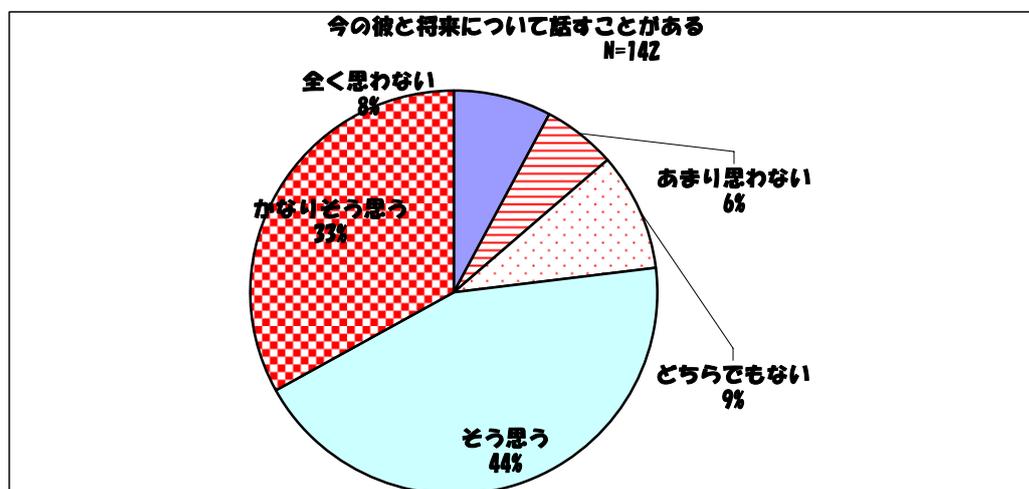
図表Ⅱ-2-9

図表Ⅱ-2-10は、「自分は彼氏に依存していると思う」という質問に対する回答を円グラフに表したものである。全体の55%が「そう思う」と答え、22%が「そう思わない」と答えた。恋人に対し、精神的に依存する人が多いということがわかる。



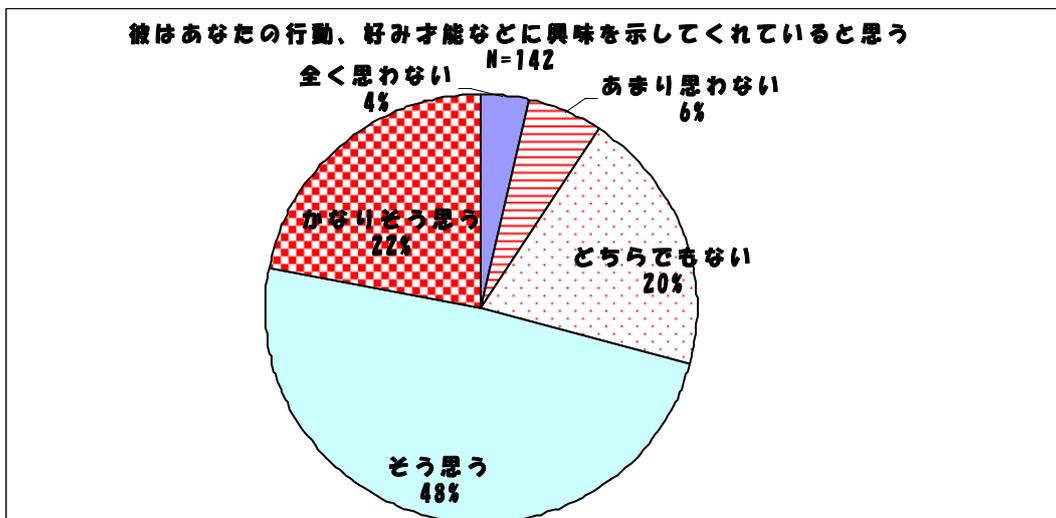
図表 II - 2 - 10

図表 II - 2 - 11 は、「今の彼と将来について話すことがある」という質問に対する回答を円グラフにまとめたものである。全体の 77% もの人が「そう思う」と答えている。この結果から、付き合っている段階でも、二人の将来について考えているカップルが多いということが言える。



図表 II - 2 - 11

図表 II - 2 - 12 は、「彼はあなたの行動、好み才能などに興味を示してくれていると思う」という質問に対する回答を円グラフにまとめたものである。「そう思わない」「どちらでもない」と答えたのが、30% だったのに対し、全体の 70% もの人が「そう思う」と答えた。このことから、大半の人が恋人とお互いの趣味などに興味を示し、刺激し合っているということがいえよう。



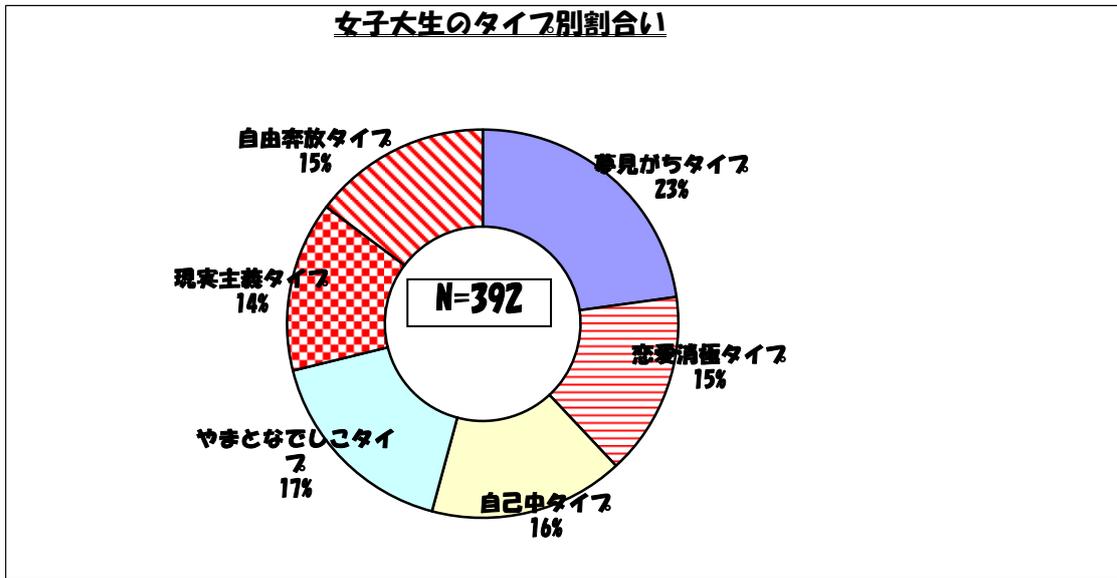
図表Ⅱ-2-12

### 3. 因子タイプ別恋愛感・結婚観について

#### (1) 恋愛・結婚に関する意識についての因子分析結果

図表Ⅱ-3-1は、恋愛・結婚に関する意識について因子分析を行った結果を示したものである。因子の抽出は主因子法を用い、抽出後バリマックス回転を行った。調査票Ⅰ-1の質問項目「合コンなど、出会いの有る場所へ行く機会が多い。」は複数の因子に対して寄与があったため除外した。6つの因子の分散の合計は53.5%である。第1因子はドラマのような恋愛を夢見ており、将来結婚を強く望んでいる、「夢見がちタイプ」である。第2因子は異性と付き合うより、女の子同士で遊んでいるほうが楽しく、恋愛以外に熱中するものを持っている、あまり恋愛に食欲ではない「恋愛消極タイプ」である。第3因子は結婚に対し、煩わしさや家に縛られるなど、マイナスのイメージを強く持つ「自己中心的なタイプ」である。第4因子は結婚相手に条件を沢山並べ、全てに当てはまらなければ結婚はしないという、条件重視の、「やまとなでしこタイプ」である。第5因子は夢見がちタイプと間逆でドラマのような恋愛を夢見ることは無く、甘い恋愛や結婚生活を想像することもせず、現実をしっかり見据えている、「現実主義タイプ」である。第6因子は基本的に結婚後も、結婚前と同じ生活をしたいと思っており、それが可能だと思っている、「自由奔放タイプ」である。

女子大生のタイプ別割合



図表 II - 3 - 1

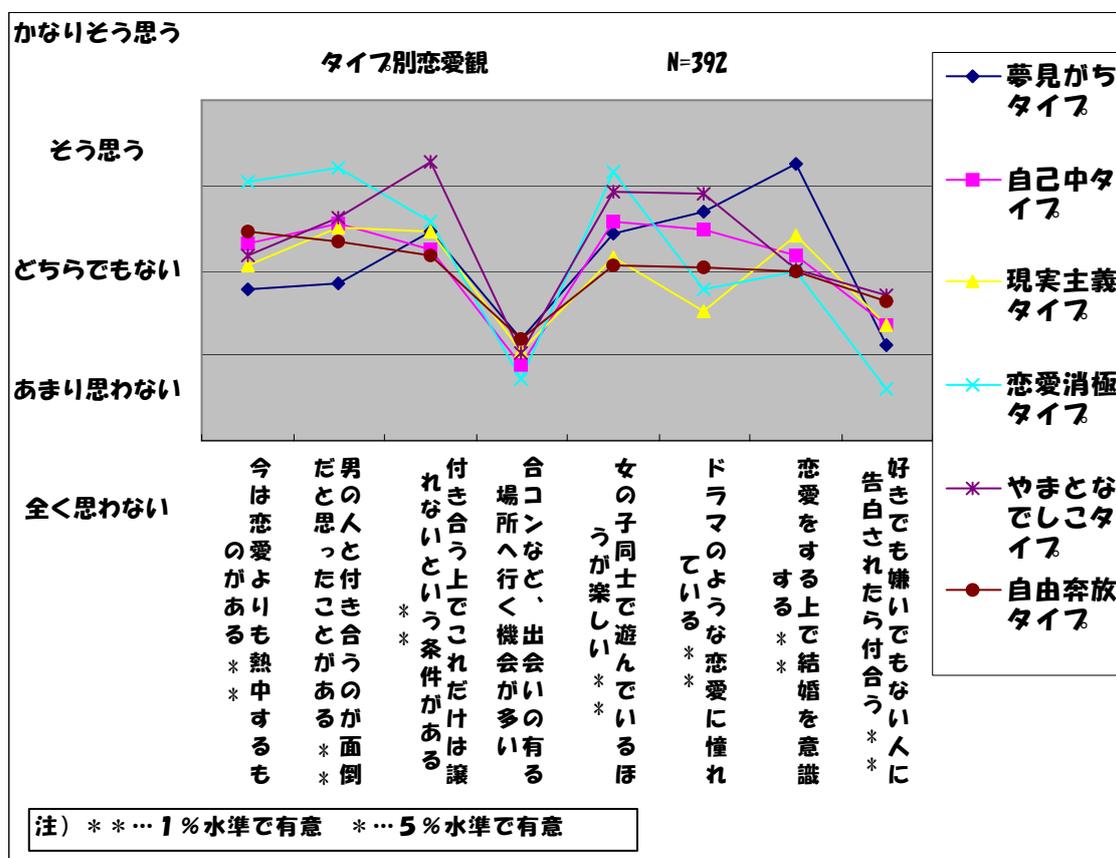
質問項目	第一因子	第二因子	第三因子	第四因子	第五因子	第六因子
	夢見がち	恋愛消極	自己中	やまとなでしこ	現実主義	自由奔放
女に生まれたからには結婚したいと思う。	0.703	-0.155	0.019	0.024	0.092	-0.072
恋愛をする上で結婚を意識する。	0.593	-0.143	-0.020	-0.104	-0.036	-0.077
自分の中で、結婚適齢期を決めている。	0.525	-0.144	-0.073	0.039	0.157	0.089
恋愛の延長線上に結婚があると思う。	0.461	0.017	0.093	-0.103	-0.085	0.057
ドラマのような恋愛に憧れている。	0.417	-0.078	0.120	0.320	-0.135	0.047
女の子同士で遊んでいるほうが楽しい。	-0.043	0.497	0.067	0.211	-0.050	-0.014
今は恋愛よりも熱中するものがある。	-0.219	0.496	0.058	0.080	0.036	0.174
男の人と付き合うのが面倒だと思ったことがある。	-0.232	0.395	0.070	0.108	0.098	0.118
好きでも嫌いでもない人に告白されたら付き合えないと思う。	0.013	-0.358	0.052	0.135	0.086	0.104
結婚すると仕事がしにくくなると思う。	-0.057	0.220	0.599	0.044	0.026	-0.007
結婚相手場合には妥協も必要だと思う。	0.061	-0.072	0.425	-0.111	0.078	-0.046
結婚後相手の家族との付き合いが煩わしいと思う。	-0.225	-0.158	0.321	0.174	0.037	0.016
価値観の違いは大きな問題になると思う。	0.157	0.102	0.296	0.104	0.109	-0.001
彼に1つでも納得出来ない所があれば結婚はしないと思う。	-0.177	0.101	-0.060	0.539	0.061	0.019
付き合い上でこれだけは譲れないという条件があると思う。	0.036	0.066	0.049	0.478	0.010	0.064
愛があればお金がなくても結婚できると思う。	0.120	0.002	-0.092	-0.032	-0.566	-0.024
周囲に反対されたらその人との結婚はやめると思う。	0.092	-0.030	0.073	0.012	0.438	-0.021
結婚後も異性の友人と自由に交際できると思う。	-0.028	0.078	-0.140	0.013	-0.074	0.621
結婚しても生活水準を落とさたくないと思う。	0.100	-0.049	0.176	0.237	0.144	0.345
<b>固有値</b>	2.682	1.883	1.510	1.399	1.213	1.106
<b>分散</b>	14.1	9.9	7.9	7.4	6.4	5.8

図表 II - 3 - 2

## (2) 因子タイプ別恋愛に対する意識の差

### タイプ別恋愛観

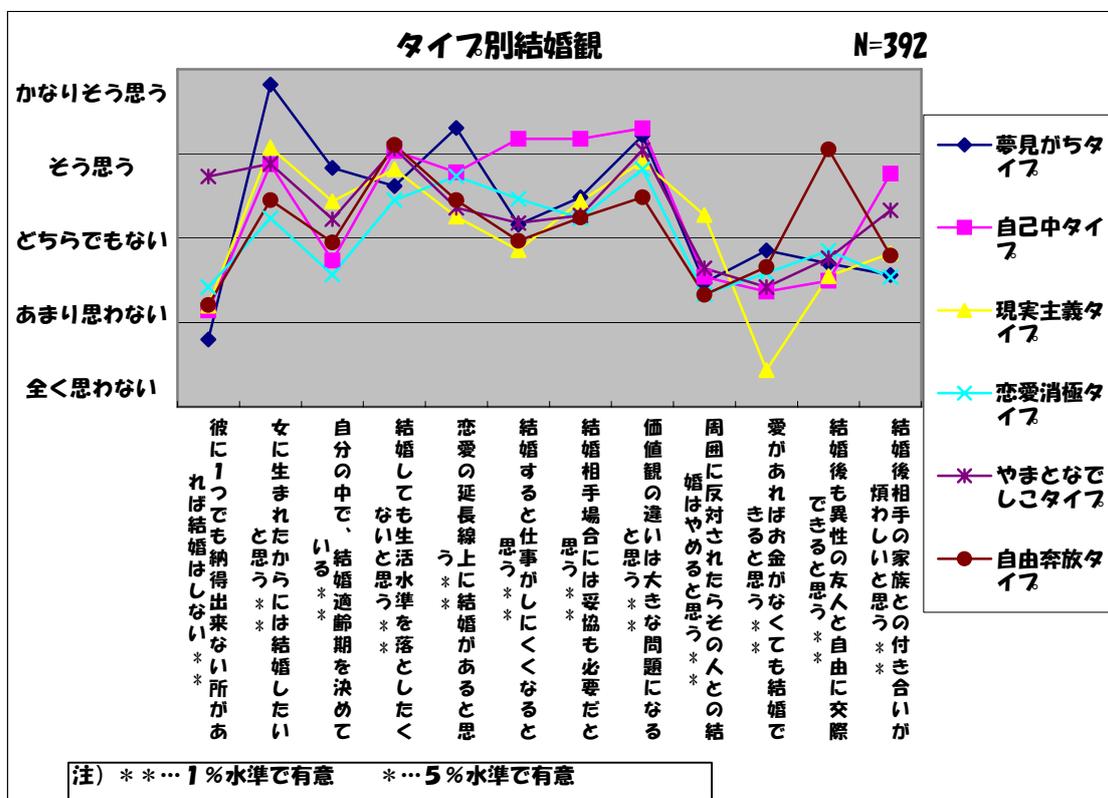
図表Ⅱ－3－3は、大学生の恋愛に関する意識を、因子タイプの違いによって恋愛に関する意識にどれほど差があるかを折れ線グラフで表したものである。上の図を見ると恋愛消極タイプは「今は恋愛よりも熱中するものがある」という項目と「男の人と付き合うのが面倒だと思ったことがある」との項目が他のタイプに比べて高いことがわかる。このタイプは恋愛よりも熱中するものがあるため恋愛にはなかなか積極的になれないことが伺える。また、「付き合う上でこれだけは譲れないという条件がある」という質問には他のタイプはほとんど差がなかったがやまとなでしこタイプは群を抜いて高く、条件が合わなければ結婚はしないという強い意志があるようである。夢見がちタイプは恋愛をするうえで結婚を意識する人が多く、他のグループに比べてダントツで高かったことが分かる。夢見がちタイプは恋愛をする時には将来のことも想像しあれこれ考えをめぐらすようである。



図表Ⅱ－3－3

### (3) 因子タイプ別結婚に対する意識の差

図表Ⅱ－3－4は、大学生の結婚に関する意識を、因子タイプの違いによって結婚に関する意識にどれほど差があるかを折れ線グラフで表したものである。「彼氏に1つでも納得出来ない所があれば結婚しない」という質問では、条件が揃わなければ結婚しない傾向のあるやまとなでしこタイプがダントツで高かった。逆に、夢見がちタイプの方は、恋人に少しくらい納得できない所があっても構わないことが分かった。また「女に生まれたからには結婚したいと思う」という質問は、夢見がちタイプをはじめどのタイプも全体的にそう思うと答えた人が多いことから、女子大生が、いずれは結婚したいと思っているということが伺える。また「結婚しても生活水準を落としたいと思う」という質問では、全てのタイプ間でそう思うと答えた人が多く意識にばらつきが見られなかった。愛があればお金が無くても結婚できるという質問では、現実主義タイプを筆頭に、どのタイプもお金が無ければ結婚は出来ないと思っている。よって、現代の女子大生は、結婚によって生活水準を落としたり、お金で苦労するのは嫌だと感じていることがわかる。



図表Ⅱ－3－4

## 4 勝ち犬予備軍と負け犬予備軍の恋愛感・結婚観について

### (1) 負け犬について

負け犬とは、未婚、子なし、三十代以上の女性を示す。この中で最も重要視されるのは、「現在結婚していない」という条件であり、「結婚して今は独身」という人も、負け犬である。また、二十代だが負け犬体質であるという女性や、結婚経験のないシングルマザーといった立場の女性も、広義では負け犬に入る。つまり、普通の家庭を築いていない女性全てを、負け犬と呼ぶ。負け犬は、「やらずに後悔するより、やって後悔したほうがよい」という考えを持っており、面白そうなことをどうしても選んでしまう。30半ばを過ぎた独身女性は、仕事や趣味、グルメや海外旅行など、センスを磨き上げてしまったために、周りの独身男性のセンスが許せないようである。魅力を感じる男性はもう残っておらず、「子供を生むリミット」だけが日々迫るという状態のようである。以下は負け犬に関する10か条を並べたものである。

#### 負け犬にならないための十か条

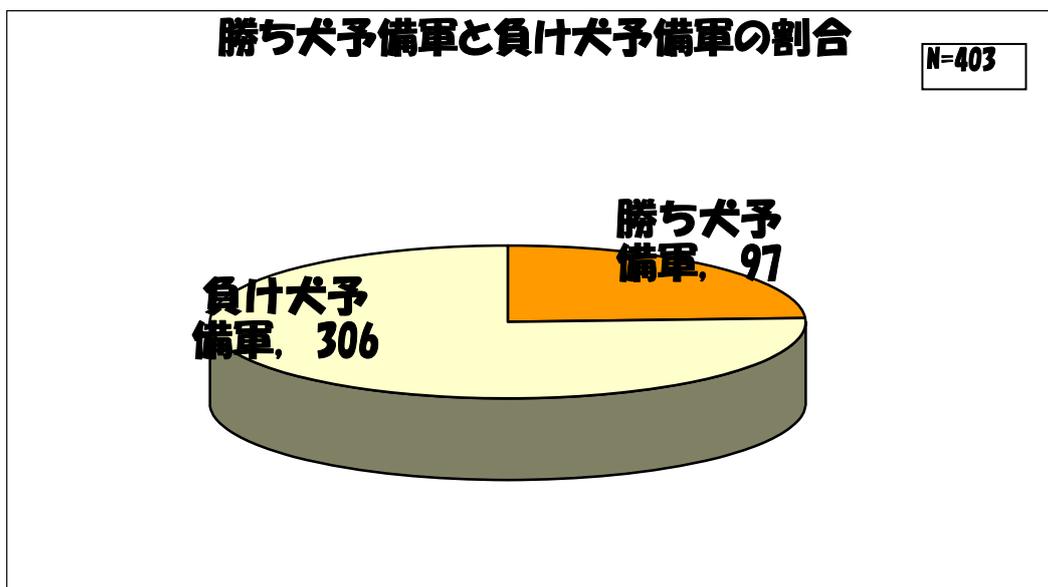
1. 不倫をしない
2. 「・・・っすよ」と言わない
3. 腕を組まない
4. 女性誌を読む
5. ナチュラルストッキングを愛用する
6. 一人旅はしない
7. 同姓に嫌われる事を恐れない
8. 名字で呼ばれないようにする
9. 「大丈夫」って言わない
10. 長期的視野のもとで物事を考える

#### 負け犬になってからの十か条

1. 悲惨すぎない先輩負け犬の友達を持つ
2. 自分を理解し認めてくれる異性をキープ
3. 男性遍歴を喧伝しない
4. 落ち込んだときの対処法を開発する
5. 外見はそこそこキープ
6. 特定の負け犬とだけツルまない
7. 産んでない子の歳は数えない
8. 体を鍛える
9. 自分より小さな存在を可愛がりたいという欲求を放出させる
10. 突き抜ける（何事も自信を持って自分を信じてやり通す）

## (2) 勝ち犬予備軍と負け犬予備軍の割合

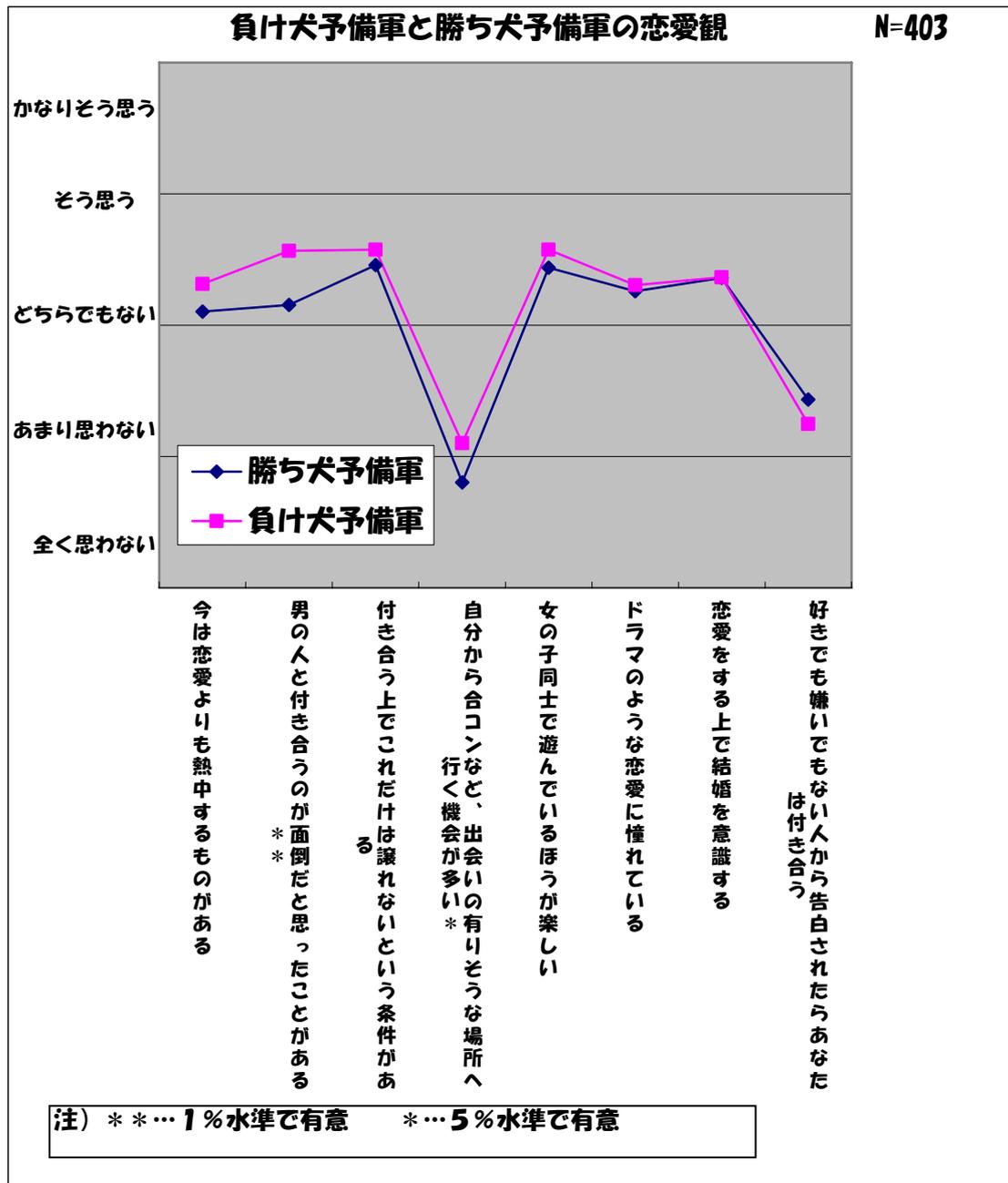
図表Ⅱ－４－１は、現役女子大生の勝ち犬予備軍と負け犬予備軍の割合を調べるために普段の行動パターンから、負け犬度を測る診断テストを行い、グラフにしたものである。その結果、403人中勝ち犬予備軍が97人、負け犬予備軍が306人と、負け犬予備軍が全体の約4分の3を占めていることがわかった。勝ち犬予備軍とされた女子大生と、負け犬予備軍とされた女子大生では、恋愛観、結婚観に違いはあるのだろうか。



図表Ⅱ－４－１

## (3) 勝ち犬予備軍と負け犬予備軍の恋愛に対する意識の差

図表Ⅱ－４－２は、負け犬予備軍と勝ち犬予備軍の恋愛観についてまとめたグラフである。比較してみた結果、「男の人と付き合うのが面倒だと思ったことがある」という質問に対し、負け犬予備軍のほうが、男の人と付き合うのが面倒だと思ったことがあるという事がわかった。また、「自分から合コンなど、出会いのありそうな場所へ行く機会が多い」という質問に対しても、負け犬予備軍のほうが、自分から合コンなど、出会いのありそうな場所へ行っているという結果が出た。それに対し、あまり違いが出なかった質問は、「ドラマのような恋愛にあこがれている」、「恋愛をする上で結婚を意識する」という項目だった。

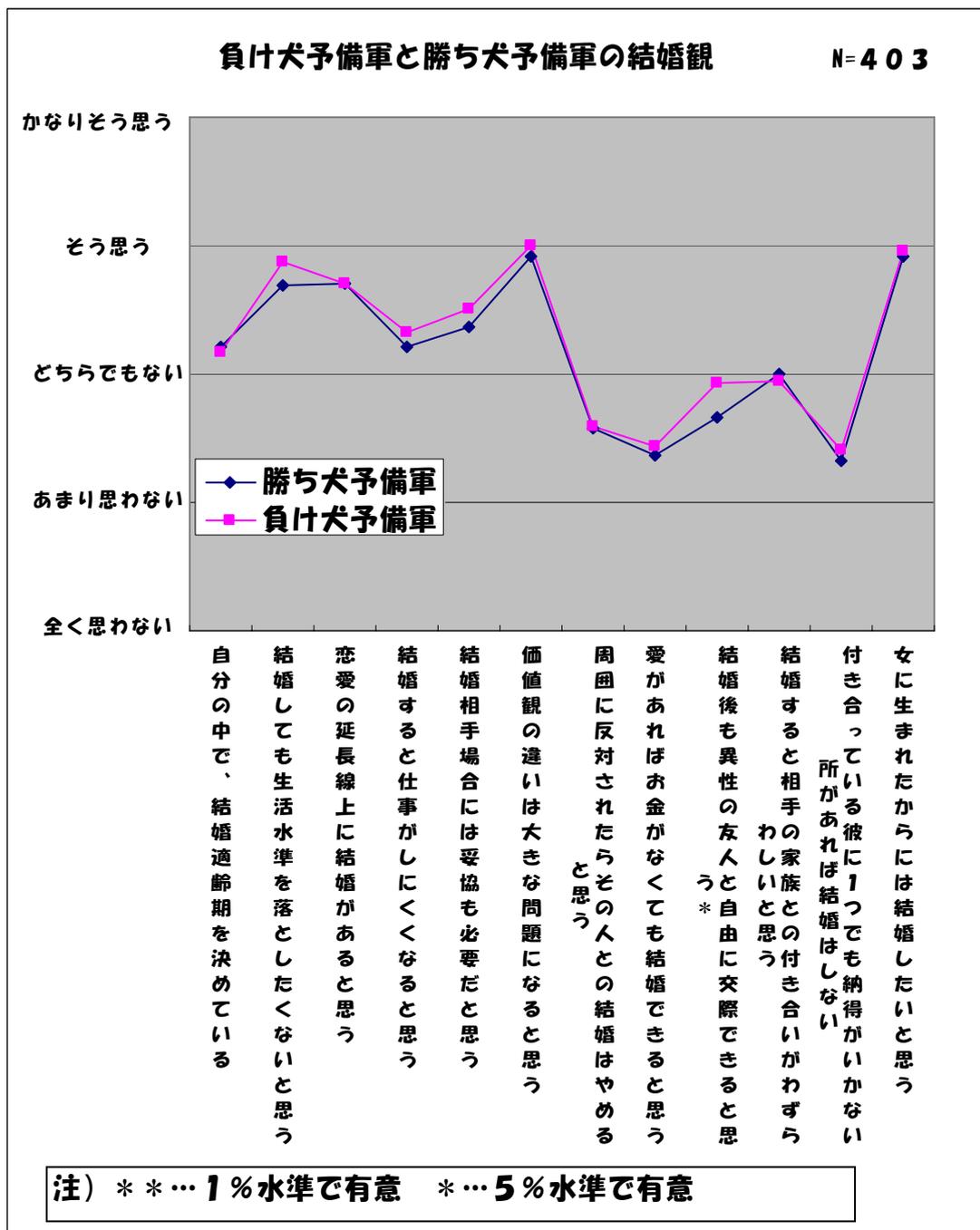


図表Ⅱ-4-2

(4) 勝ち犬予備軍と負け犬予備軍の結婚に対する意識の差

図表Ⅱ-4-3は、負け犬予備軍と勝ち犬予備軍の結婚観を比較して、結婚に関する意識にどれほど違いがあるのかをまとめたものである。全体的に見て、あまり大差は無いが、考え方の違いが表れたのが、「結婚後も異性の友人と自由に交際できると思う」という質問で、負け犬予備軍は「どちらでもない」と答えているのに対し、勝ち犬予備軍は「あまり思わない」と答え

ている。この事から、わずかながら負け犬予備軍のほうが、異性に対して勝ち犬予備軍よりルーズな考え方だという事がわかった。結婚に関しては、アンケート対象が女子大学生にしぼって行われたためか、勝ち犬予備軍と負け犬予備軍の結婚観の違いはあまり無かった。



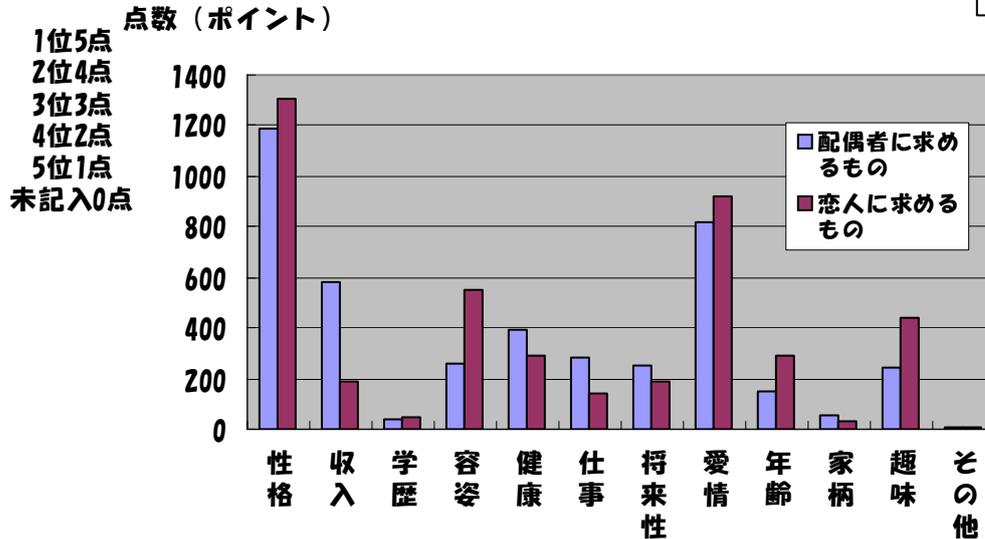
図表Ⅱ-4-3

#### (5) 負け犬予備軍と勝ち犬予備軍の恋人・配偶者の重視条件について

図表Ⅱ－４－４と図表Ⅱ－４－５は、負け犬予備軍の「恋人・配偶者を選ぶ上での条件」と勝ち犬予備軍の「恋人・配偶者を選ぶ上での条件」をそれぞれグラフに表したものである。配偶者・恋人共に、性格や愛情など、精神的な面を高く評価する傾向が高いと言う事がわかる。それに対し、家柄や学歴、仕事など、肩書きとなるようなものには、あまり興味を示していないことがわかる。一方、配偶者に求める条件と恋人に求める条件との間に差が出たのは、負け犬・勝ち犬ともに容姿と収入についてである。恋人には、容姿の良さも多少重視しているのに比べ、配偶者には、恋人に対して思うほど容姿を重視していないことがわかる。収入に関しては、容姿とは逆に恋人に対してはあまり収入にこだわらないのに対し、配偶者となると、収入も重要視する対象になるようである。また、どの項目を見ても、勝ち犬予備軍と負け犬予備軍との間では差が無く、大学生である現時点では、負け犬予備軍と勝ち犬予備軍の、恋人・配偶者選びの基準に差はあまり見られないことがわかる。

## 負け犬予備軍が相手を選ぶ上で重視する条件

N=403

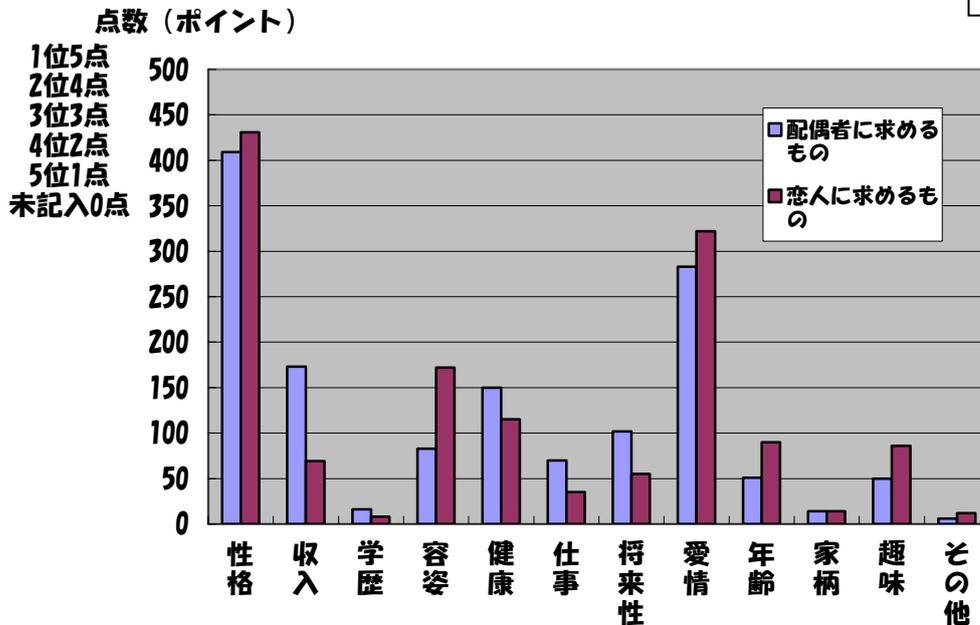


注) 1位5点 2位4点 3位3点 4位2点 5位1点 未記入0点とし、点数を合計したものである。

図表Ⅱ-4-4

## 勝ち犬予備軍が相手を選ぶ上で重視する条件

N=97



注) 1位5点 2位4点 3位3点 4位2点 5位1点 未記入0点とし、点数を合計したものである。

図表Ⅱ－４－５

## Ⅲ章 まとめ

## 1. まとめ

女子大生の恋愛観・結婚観に対する意識調査では、恋愛に対して消極的で慎重な見方をする人が多いことがわかった。結婚観においては、恋愛の延長線上に結婚があると考え、ほとんどの人が女に生まれたからには結婚したいと思っていることが明らかになった。また、結婚によって生活水準を落とすことは好ましくないと考えているようである。恋人のいる人といない人の恋愛観を比較した調査では、恋人のいない人の方が、理想が高く恋愛に対して消極的であることがわかった。また結婚に対する意識の差は、現時点では結婚を経験していない女子大生がほとんどだったため、恋人がいる人といない人との間で差は見られなかった。女子大生の相手を選ぶ上で重視する条件の調査では、恋人には容姿や年齢、趣味など、見た目の華やかさや楽しさを求めるのに対し、配偶者には、収入や健康、仕事や将来性など、家族を養う経済力を重視していることがわかった。恋人の有無による恋人・配偶者の重視条件については、あまり差がみられなかった。

女子大生の恋愛の実態については、交際のきっかけはほとんどの人が自

分から積極的に行動を起こすより、相手からのアプローチを待っていることがわかる。恋人の有無に関する調査項目では、約50%以上の方が無と答えており、この結果は女子大学ということで異性との交流が少ないことなどが原因しているのではないかと考えられる。現在お付き合いしている特定の異性についての調査項目では、恋人がいる人の7割がその相手との将来や、具体的に結婚を考え、家族ぐるみの付き合いがあるということがわかった。また、恋人に対する依存率もかなり高く、お互いために連絡を取り合い、恋人に別れを告げられたらもう二度と恋人が出来ないのではないかと考えている人がかなり多いことなどからもわかる。

因子タイプ別恋愛観・結婚観については、因子分析をした結果、夢見がちタイプ、恋愛消極タイプ、自己中心タイプ、やまとなでしこタイプ、現実主義タイプ、自由奔放タイプの7つのタイプに分けることができた。タイプ別の割合は夢見がちタイプが若干多かったがその他のタイプも大体同じ割合であった。

勝ち犬予備軍と負け犬予備軍の恋愛観・結婚観についての調査では、勝ち犬予備軍と負け犬予備軍を普段の行動パターンから分類した結果、負け犬予備軍が全体の4分の3を占めていることがわかる。分類別に女子大生の恋愛や結婚に対する意識を比べてみたが、ともにあまり差は見られなかった。具体的には、恋愛観においては、負け犬予備軍のほうが男の人と付き合うのは面倒だと思っはいるが、出会いのありそうな場所へ行く機会は多いということだった。結婚観においては、この調査で、負け犬の定義として未婚、子ナシ、30代以上の女性ということをしており、現在、結婚出産などを経験していない女子大生では、イメージするのが難しかったようである。考え方の違いが表れたのは、負け犬予備軍は結婚後も異性の友人と自由に交際できると考えており、勝ち犬予備軍は結婚後は自由に交際できるとは考えていないという結果から、負け犬予備軍の方が勝ち犬予備軍と比較して異性に対してルーズな考え方を持っているようである。負け犬予備軍と勝ち犬予備軍の相手を選ぶ上で重視する条件を調査した項目では、勝ち犬予備軍・負け犬予備軍ともに恋人に求める条件では、精神面の良さに加えて容姿を重視するが、配偶者に求める条件では容姿はあまり重視せず、収入を重視するよう

ある。こちらもやはり、大学生である現時点ではあまり差は見られなかった。

## 2. 今後の課題

今回の調査では、短大か四年制大学に通う女子生徒を対象に調査した。限られた年齢層のサンプルのみを対象にした調査だったということで、「恋人に求める条件」の質問には、恋人のいる人といない人で差が出たが、結婚相手に求める条件には、まだ結婚を意識している人が極端に少ないということ、あまり身近に感じる事が出来ないということから、結果にばらつきが見られず、もっと幅広い年齢層を対象に調査を進めれば、既婚者と未婚者で考え方に差が見られたのではないかと思った。また、女性の恋愛・結婚観のみではなく、仕事の仕方に対する意識調査や、出産に対する意識の調査も今後やってみたい。今回は女性のみ調査だったが、今度は男性の意識も調査し、男女間で、恋愛感・結婚観に意識の差が見られるのかを調査してみたいと思う。近年、男女共に未婚化・晩婚化が進み深刻な問題となっているが、さらに研究を進め少子化や晩婚化に関する調査、分析をしていく必要がある。

### 参考文献・資料

1. 経済産業省 「将来世代の活力の向上」平成17年
2. 鈴木りえこ 「21世紀の新たなライフスタイルと交流社会」  
<http://www.gpc.pref.gifu.jp/infomag/gifu/103/ronbun2.htm>
3. 『負け犬の遠吠え』（酒井順子 2003年発行 講談社）

# 付表

1. 調査票
2. 発表資料